SAMSUNG

デジタルビデオレコーダー

SHR-3010

取扱説明書

注意

感電の恐れがあるので機器のカバーを開けないで（または分解しないで）下さい。

注意：

感電の恐れがあるので機器のカバーを開けないで（または分解しないで）下さい。

修理はサービスマンにお任せ下さい。

左図の印は、機器内部に絶縁処理が施されておらず感電の恐れのある「危険電圧個所」の存在を警告し、表示しています。

左図の印は、機器を説明する文書の中で、重要な操作方法やメンテナンス（サービス）指示が掲載されていることを表わしています。

警告：　火災や感電の危険性を防ぐため、機器を雨や湿気のある場所にさらさないで下さい。

より安全にお使いいただくために

1．お使いいただく前に「取扱説明書」を十分にお読み下さい。
2．「取扱説明書」は大切に保管して下さい。
3．機器を清掃する場合は、かならず前もってコンセントからプラグを抜いて下さい。
　汚れたら液体洗剤、エアゾール洗剤は使用しないで乾いた布でふき取って下さい。
4．弊社製品以外の付属品は、故障の恐れがあるため使用しないで下さい。
5．機器を水の近くに（例えば：浴槽・洗面台・流し台・洗濯機・湿気の多い地下・プールなど）置いたり、そこで使用したりしないで下さい。
6．不安定なカート・スタンド・机の上に機器を置かないで下さい。機器が落ちてケガをしたり、機器そのものに損傷をきたしたりすることがあります。「取扱説明書」で指定された移動カートやスタンドをご使用下さい。移動カートを動かすときは急回転・超過重を避けて安定した状態で、慎重に移動させて下さい。

7. 機器の下部または背部にある穴や隙間は、正確な動作を確認するためや熱を逃がすために設けられているものです。これらの穴や隙間をベッド・じゅうたん類・布など類似のものでふさがないで下さい。またこの機器を暖房器具や熱を発する器具の近くに設置しないで下さい。風通しの良い場所でない限り、備え付け本棚のような場所に設置しないで下さい。
8. 表示ラベルに示される電源電圧にしたがって作動させて下さい。使用可能な電源電圧が不明な場合は、販売店かお近くの電力会社にお問い合わせ下さい。
9. コードの上には何も置かないでください。またコードを人が踏みつけるような通路に配線しないで下さい。
10. コンセントや延長コードの上に重いものを置くなど負担をかけないようにして下さい。火災や感電の恐れがあります。
11. 機器に関して「警告事項」及び「取扱説明書」の注意事項を遵守して下さい。
12. 感電やその他の危険の恐れがありますので、蓋や隙間を開けて機器をご自分で修理しないで下さい。修理・整備点検はサービスマンにお任せ下さい。
13. 次のような場合は速やかにプラグをコンセントから抜き、当社へご連絡下さい。
    a) 電源コード及びプラグが損傷した場合
    b) 機器の中に水などの液体をこぼした場合。
    c) 機器が、「取扱説明書」にしたがって作動させても正常に動作しない場合。
    調整をご自身で行なう場合は「取扱説明書」に記載されている調整の範囲で行って下さい。
    不適切な調整は、機器に損傷を与えるばかりでなく、機器を正常動作に復元するため、専門技術者による長時間にわたる作業を必要とする可能性があります。
    d) 機器が雨や水に濡れたとき。
    e) 機器を落としたり、カバーを損傷したりしたとき。
    f) 機器の性能が著しく変化して、修理が必要になったとき。
14. 部品交換が必要になった場合、弊社の指定部品または同等性能部品かどうかを確認してご使用下さい。指定外の部品をご使用になると火災や感電等の恐れがあります。
15. 機器の修理や点検を受けたときは、サービスマンに安全確認をしてもらい、適切な動作状態にあるか、正常な動作をしているかを確認してもらって下さい。

目 次

Ⅰ．概略・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
１．概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
２．特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
３．各部の名称とはたらき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
４．開梱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
５．ハードディスクの増設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

Ⅱ．他の機器との接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
１．外部機器との接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
２．マルチプレクサとの接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
３．アラーム記録のためのシステム接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
４．パソコンを 用いて運用するための接続・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

Ⅲ． 基本的な使い方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
１．システムの起動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
２．基本画面を見る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
３．メニュー画面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
４．日付、時間、画面設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
５．記録設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
６．アラーム記録設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
７．予約記録設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
８．システム設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
９．通信設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
１０．システム情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
１１．SCSI ハードディスクバックアップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53

Ⅳ．記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
１．基本的な記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
２．レコードロック・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
３．アラーム記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
４．予約記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

Ⅴ．検索と再生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
１．検索メニュー画面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
２．日付と時間による検索・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
３．記録データリスト画面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
４．アラーム記録検索・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
５．電源 On/Off ステータスリスト画面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
６．基本的な再生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
７．ジョグ/シャトルを使って様々な画面を見る・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76

Ⅵ．その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
１．機器仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
２．外形図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81

Ⅶ．付録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
１．サービスセンターへ連絡する前の確認事項・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
２．Q&A・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86

Ⅰ．概略

1. 概要

デジタルビデオレコーダーSHR-3010 は、記録メディアとしてハードディスクを利用するデジタルタイムラプスレコーダーです。使い方は簡単、ジョグ／シャトル内蔵で、これまでタイムラプス VCR を使ったことがある方なら容易に操作できます。ハードディスクで連続記録ができ、タイムラプス VCR のようにビデオテープを巻き戻ししたりすることなく、記録した映像を見ることもできます。SHR-3010 は、音声と映像を同時に記録でき、外部パソコンから直接システムを制御でき、外部 SCSI ハードディスクにデータをバックアップすることも可能です。

2. 特徴

■システムを起動する際、自動的に入力シグナルが NTSC もしくは PAL かどうかを識別します。

■ 4 段階の画質調整
- ・Very High (超高画質) 、High (高画質) 、Normal (標準画質) 、Low (低画質)

■ 秒単位の記録フィールドの数値を変更
- ・NTSC：60～0.50 フィールド／秒
- ・PAL：50～0.50 フィールド／秒

■ 記録しながらの再生が可能

■ タイマーを使っての予約記録

■ アラームによる記録

■ 映像の変化を検知した際にアラームを発生または記録が可能なモーションディテクター機能

■ マルチプレクサへのリンク

■ 多様な再生速度
- ・ジョグによるフレームの移動
- ・1/5, 1/2, 1, 2, 5, 10, 20 ボー速度 (再生、逆再生)

■ 便利な検索機能
- ・日付＆時間検索、アラームイベント検索、記録イベント検索

■ ジョグ／シャトルを使った便利な操作

■ LAN を経由した遠隔監視および遠隔操作
- ・ネットワークインターフェース：Ethernet(10/100 ベース T)
- ・プロトコル：TCP/IP
- ・Web サーバー：PC にインストールされたソフトウェア (Viewer Program) を通しての映像の取り込みと遠隔監視

■ 停電が復旧した際に自動で起動し、記録モードを回復して記録の開始

■ 直列通信による遠隔制御

・RS232 ×1 ポート

・RS485 ×2 ポート（32 セットまでの接続）

・RS-485 コントロールを経由して LAN VIEWER PROGRAM の PAN/TILT/ZOOM カメラの操作

■ 記録状況とハードディスクの残りの容量を、画面にバーで表示。特に再生モードの時にハードディスクの全容量のうち現在使用されている部分がバーで表示されます

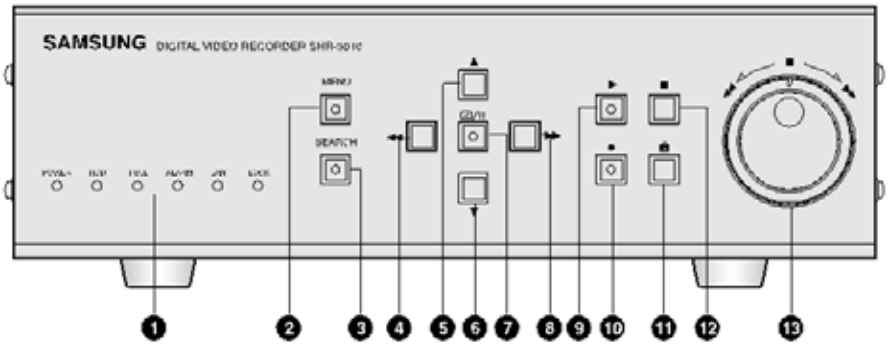
■ 音声と映像を同時に記録可能

■ 英語に加えて、マルチ言語サポートがドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語が利用可能なマルチ言語サポート

■ SCSI でデータをバックアップ可能

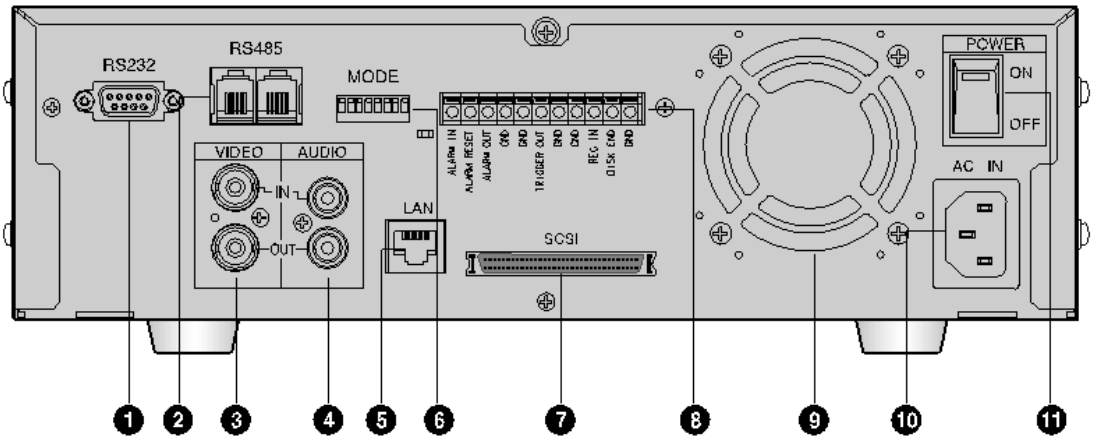
■ 遠隔監視ソフト Remote Viewer によるカメラの操作、チャンネルの選択が可能。（サムスン機種のみとなります：SCC-641、643 カメラ、SCC421 シリーズ（C4201、 C4203、C4301、C4303）カメラ、SDM-160 マルチプレクサ）

3. 各部の名称とはたらき



No.	名称		はたらき
①	POWER HDD FULL ALARM LAN LOCK	STATUS DISPLAY LED	システムの状態を表示 ・電源： 電源が ON かどうかの確認 ・HDD： ハードディスクへ正常にアクセスしているかの確認 ・FULL： ハードディスクの容量が一杯かどうかの確認 ・アラーム： アラームが動作中かどうかの確認 ・LAN： LAN が正常に動作しているかの確認 ・LOCK： レコーディングロック状態かどうかの確認
②	MENU	MENU	本機の設定を行なうためにメニューを表示する際やサブメニューからトップメニューに移行する際に使用します。
③	SEARCH	SEARCH	記録されたデータリストを表示します。SET/STILL(↵/II)ボタンを押してリストからデータを選択し、PLAY(▶)ボタンを押すとデータを再生できます。
④		LEFT (◀◀)	記録した映像を再生している間に巻き戻す時、逆再生で静止画面を見る時、メニューの詳細を設定する際に左側の設定を変更、編集する際に使用します。
⑤		UP (▲)	メニューの上の項目にカーソルを移動したり、メニューの詳細を設定する時の数値を増やす際に使用します。

No.	名称		はたらき
⑥		DOWN（▼）	メニューの下の項目にカーソルを移動したり、メニューの詳細を設定する時の値を減らす際に使用します。
⑦		SET/STILL （⏎/II）	再生中に一時停止する時や、静止画面を見る時に使用します。メニュー設定では ENTER（決定）の機能を果たします。
⑧		RIGHT（▶▶）	記録映像の再生中に早送りをする時や、静止画面をコマ送りで見る時、メニューの詳細設定で左側の設定を変えたり編集したりする時に使用します。
⑨		PLAY(▶)	記録データを再生します。
⑩		RECORD(●)	ライブ映像を記録します。
⑪		REC LOCK(🔒)	記録中に他のキーを入力できないようにします。
⑫		STOP(■)	再生、記録を停止します。
⑬		JOG/SHTTLE	メニュー設定でカーソルを移動したり、メニューの詳細設定で値を変更する時に使用します。また再生モードのデータにおいて一時停止中、1フレームごとに映像を見たり、再生スピードを変更するのに使用します。



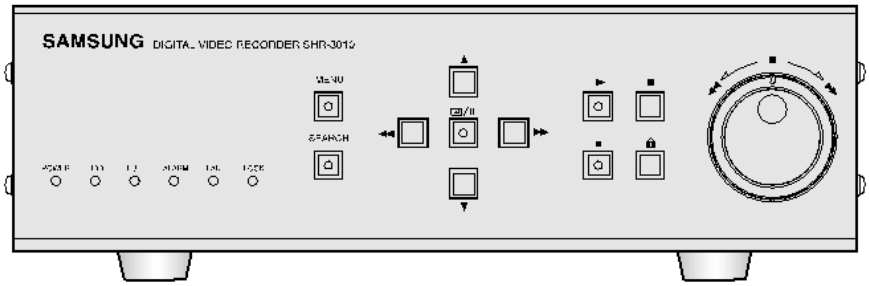
No.	名称	はたらき
①	RS232 ポート	遠隔操作のためのシリアルポート
②	RS485 ポート	遠隔操作のためのシリアルポート
③	VIDEO IN/OUT	コンポジット映像信号入力／出力端子(BNC)
④	AUDIO IN/OUT	音声入力／出力ジャック(RCA)
⑤	LAN	LAN ケーブル接続端子
⑥	MODE	システム ID、ダイレクト通信、終端等の設定のための DIP スイッチ ●1～5： システム ID ●6： 未使用 ●7： 終端 ON/OFF(直接接続しているシステムのうち、最後のものを ON として設定) ●8： 未使用
⑦	SCSI	データバックアップ用の SCSI コネクター

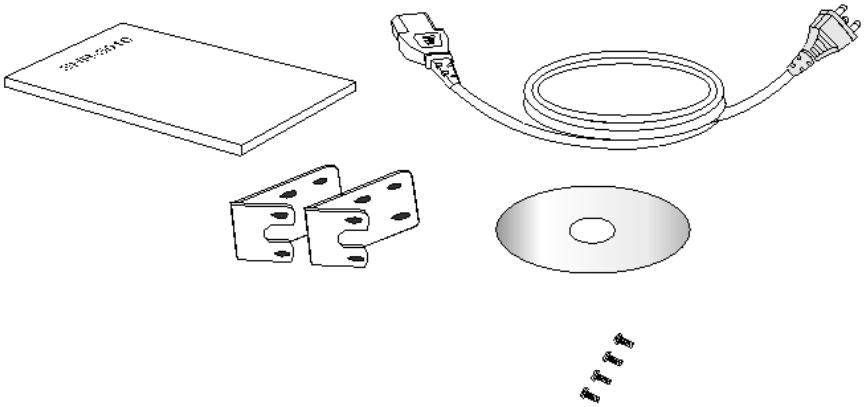
No.	名称	はたらき
⑧	外部 I/O ポート	･ALARM IN: N.C(常時閉)モードでは、高(5V)シグナルが 0.5 秒以上入力されると、アラームを感知します。N.O(常時開)モードでは、低(0V)シグナルが 0.5 秒以上入力されると、アラームを感知します。(P.42 の“② ALARM DETECT TYPE”を参照して下さい。) ･ALARM RESET: 低(0V)シグナルが 0.5 秒以上入力されるとアラームモードは消去されます。 ･ALARM OUT: 高(5V)シグナルがアラーム記録中に出力されます。 ･TRIGGER OUT: マルチプレクサの録画出力画面を切り替えるためのものです。 ･REC IN: 低(V)シグナルが 0.5 秒以上入力されると記録を開始します。 ･DISC END: RECORD MODE SETUP の DISK END MODE が停止に設定されていると、記録中ハードディスクの容量が一杯になった時、低(0V)シグナルが約1秒間出力されます。(P.43 の DISK END MODE を参照して下さい。)
⑨	ファン	冷却用ファン
⑩	AC IN	電源ケーブルをつなぎます
⑪	POWER	電源 ON/OFF ボタン

4. 開梱

商品を購入したら、まずは開梱して平らな床に置くかもしくは使用する場所に設置して下さい。

- ●本体
- ●取扱説明書
- ●電源コード…1 本
- ●ラックマウントアダプター…2 個
- ●取付用ねじ (PH、 UNC6-32、L4.2、WHT) …4 個
- ●REMOTE VIEWER (遠隔監視用ソフトウェア) インストール用 CD





⚠ 注意

上記の内容は、製品の品質や機能向上のため、予告なく変更することがあります。

5. ハードディスクの増設

ハードディスクの取付

1. 本体の左右および背面の“SCREW-SPECIAL（BWH、 M4、 L8、WHT）”を緩め、本体から“CABINET-TOP”をはずします。

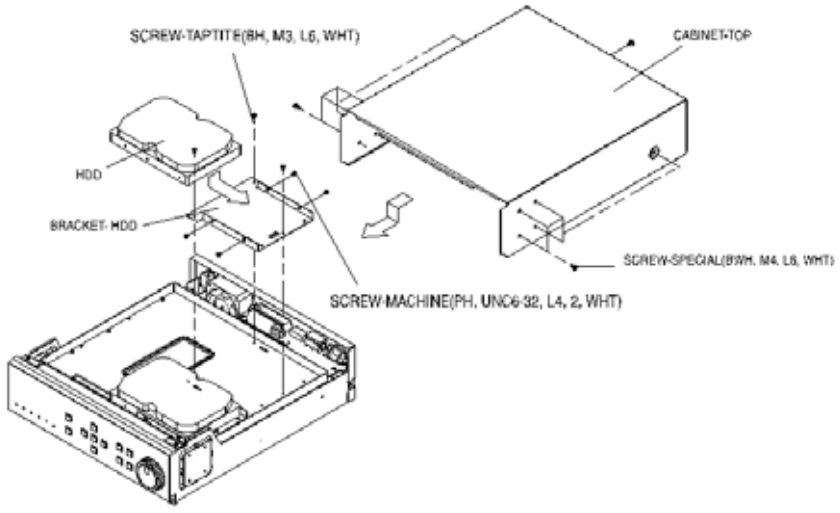
2. “SCREW-TAPTITE（BWH、M4、L6、WHT）”を緩め、下のイラストを参考に“BRACKET-HDD”からハードディスクを取りはずします。

3. 下のイラストを参考にハードディスクを“BRACKET-HDD”に取り付けて付属品のSCREW-MACHINE(PH、UNC6-32 L4、WHT)をしめます。

4. 本体に BRACKET-HDD をセットしたハードディスクを取り付けて SCREW-TAPTITE(BH、M3、L6WHT) をしめます。

5. 電源ケーブルとAT-Busインターフェースケーブルをつなぎます。（P.16 “モード設定とケーブルの接続”を参照して下さい。）

6. “CABINET-TOP”を後ろからはめて“SCREW-SPECIAL BWH、M4、L8、WHT”を締めます。



⚠ 注意

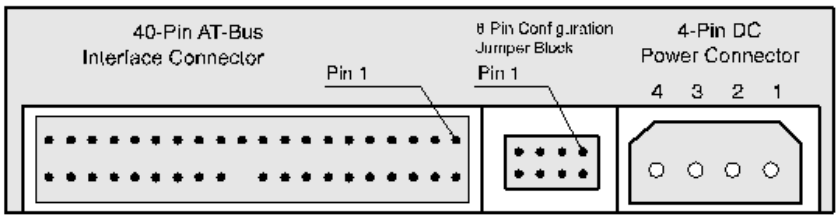
ハードディスクが2つついている製品は、販売される際にハードディスクブラケットにハードディスクが2つ取り付けられており、ハードディスクが1つのみの製品は、ハードディスクが取り付けられているハードディスクブラケットの横に予備のハードディスクブラケットが供給されています。

⚠ 注意

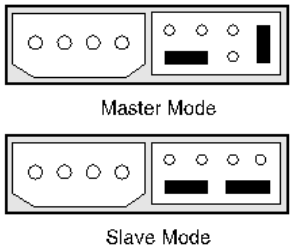
ハードディスクを交換または増設する前に、本機の電源が OFF であることを確認して下さい。ハードディスクが十分に機能しないかまたは寿命が短くなることがあります。

モード設定とケーブルの接続

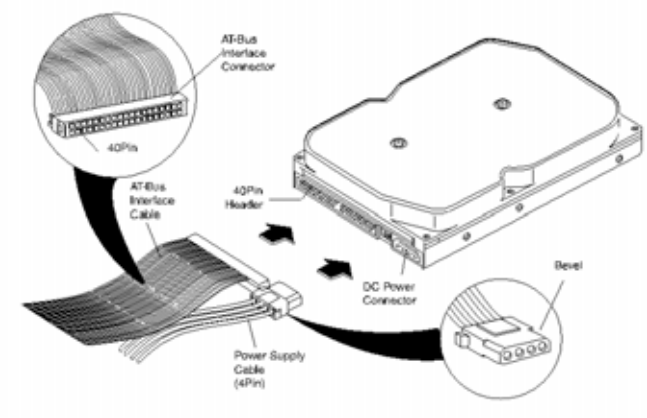
ハードディスクを本体に取り付けたらハードディスクモードを設定し、ケーブルを接続して下さい。電源コネクター、AT-Bus インターフェイスコネクター、ハードディスクのコンフィギュレーションジャンパーブロックは下のイラストの通りです。



ハードディスクモード設定は、コンフィギュレーションジャンパーブロックを通じて行なわれます。本体にハードディスクを2つ取り付ける場合、1つは Master Mode（マスターモード）、もう1つは Slave Mode（スレイブモード）に設定しなければいけません。基本的に、本体に取り付けられているハードディスクは、マスターモードなので、新しいハードディスクを取り付ける時はスレイブモードに設定します。例えば、サムソン Spinpointy 40 HDD の場合、モードは次のように設定されます。



AT-Bus インターフェイスケーブルと電源ケーブルは AT-Bus インターフェイスコネクターおよび DC 電源コネクターに接続して下さい。下のイラストを参照して、機器が正常に動作するよう、取り付けたハードディスクを確認して下さい。



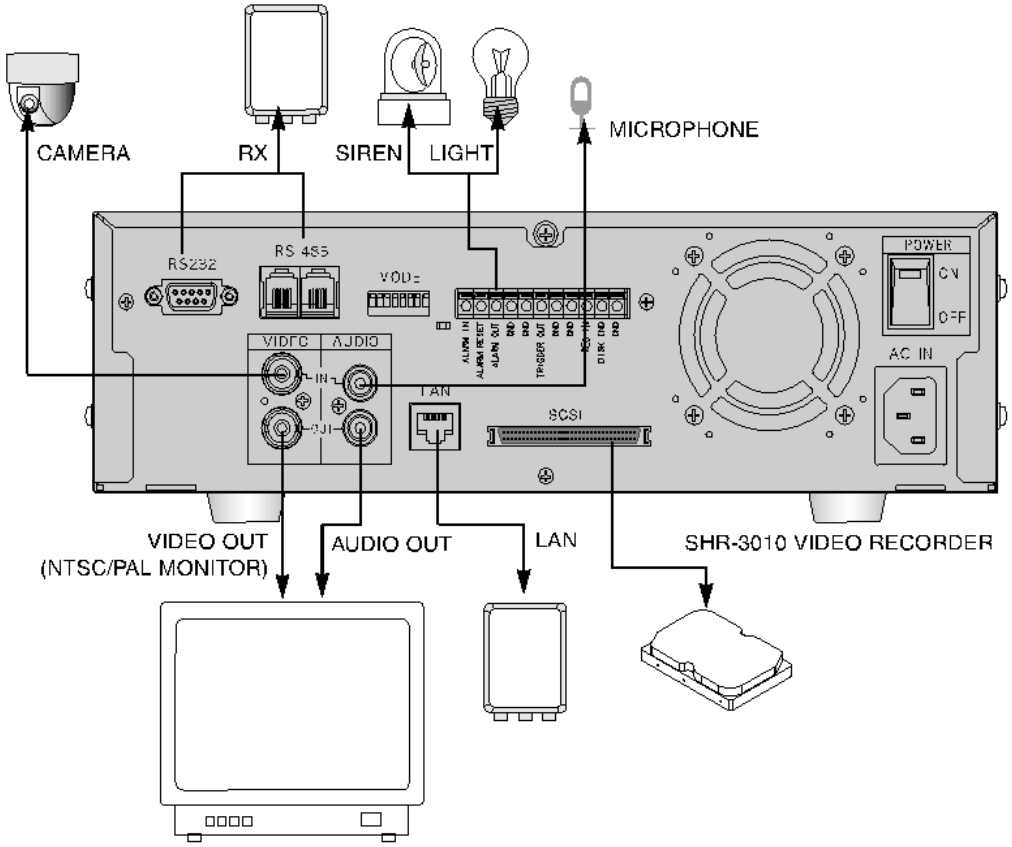
本体にハードディスクが正しく取り付けられた状態でシステムを起動すると、新しいハードディスクが取り付けられたことを認識し、ハードディスクをフォーマットした後、作動を始めます。

⚠ 注意

本製品のハードディスクにはサムスン製 SpinpointV40 SV4002H もしくは SV8004H をお勧めします。ハードディスクを増設する際は、お買い上げ店に相談して下さい。

Ⅱ．他の機器との接続

1. 外部機器との接続



■本機は VIDEO IN (映像入力) にカメラ、AUDIO IN (音声入力) にマイク、VIDEO OUT (映像出力) および AUDIO OUT (音声出力) に NTSC／PAL モニターを接続できます。

■要望に応じてアラームなどの外部機器に接続できます。

■遠隔操作用に LAN またはシリアル接続経由でパソコンに接続できます。

■SCSI を使って、バックアップ機器にデータをバックアップできます。

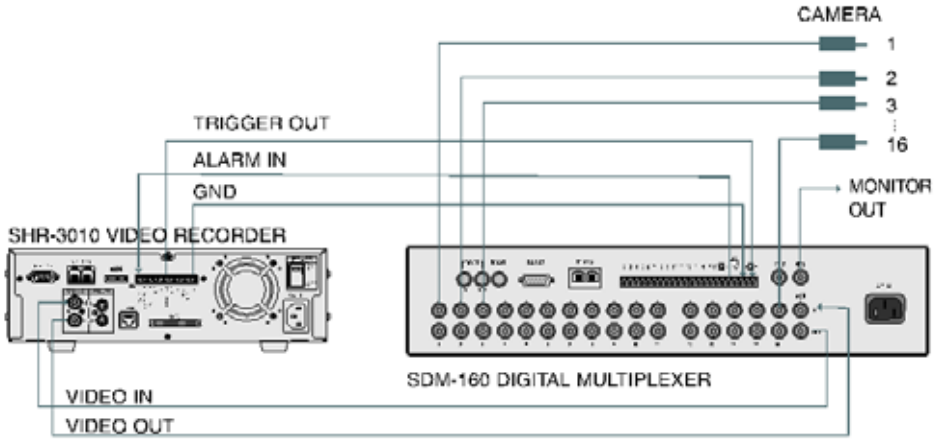
⚠ 注意

－NTSC または PAL ビデオ信号を表示できる CRT モニターを使用して下さい。

－本機のバックアップ機器は SCSI ハードディスクにのみ適用されます。

2. マルチプレクサとの接続

(例: SDM-160 への接続)



■SDM-160 は NTSC、SDM-160P は PAL 対応のマルチプレクサです。

■SDM-160 の機能の詳細は、SDM-160 の取扱説明書を参照して下さい。

■本機の VIDEO IN と SDM-160 の VIDEO OUT を接続し、SDM-160 の VIDEO IN と本機の VIDEO OUT を接続します。

■SDM-160 の ALARM OUT を本機の ALARM IN と接続し、SDM-160 の VTI を本機の TRIGGER OUT と接続します。

■両方の GND 端子を接続します。

⚠ 注意

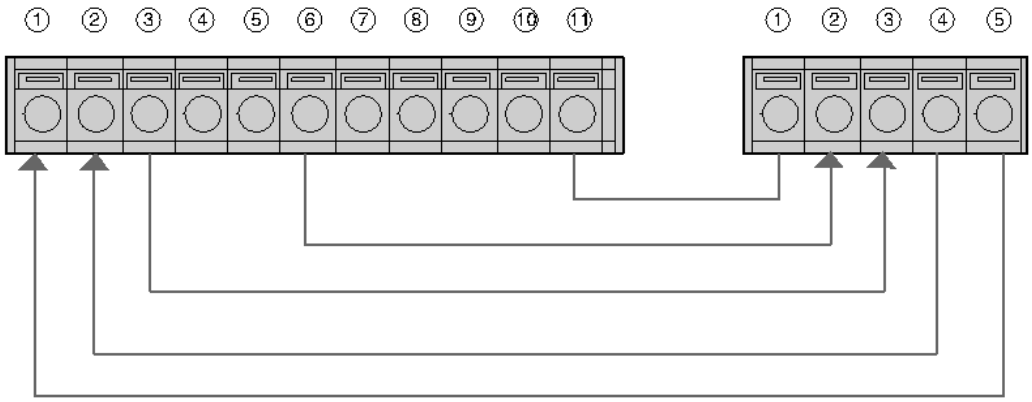
－マルチプレクサと本機のトリガー出力端子(TRIGGER OUT)を必ず接続して下さい。
正常な記録が行なえない場合があります。
(接続方法については、お使いのマルチプレクサの取扱説明書を参照して下さい。)

－本機の記録フィールドレートが NTSC 映像信号に対して 0.5～15FPS(Fields Per Second)、PAL ビデオ信号に対して 0.5～12.5FPS に設定されている場合、記録出力画面がトリガーパルスによって切り替えられるようにマルチプレクサが設定されていることを確認して下さい。(記録フィールドレートに関する設定については、P.42 “③PICTURE RATE”を参照して下さい。)

－本機の記録フィールドレートが NTSC 映像信号入力では 30FPS、PAL 映像信号入力では 25FPS に設定されている場合、マルチプレクサのタイプによってはビデオ入力チャンネルの半分が記録されないことがあります。この場合、記録フィールドレートを NTSC は 60FPS、PAL は 50FPS に設定して下さい。

3. アラーム記録のためのシステム接続

<SHR-3010背面接続端子>　　<外部機器>



①ALARM IN	① GND
②ALARM RESET	② TRIGGER IN
③ALARM OUT	③ ALARM IN
⑥TRIGGER OUT	④ ALARM CANCEL
⑪GND	⑤ ALARM OUT

■アラーム記録は、本機に接続されている機器がアラーム信号を出力している間、そのアラーム信号が入力されると入力映像を記録する機能です。

■外部の機器によっては上のイラストの数字が異なることがあります。該当する端子に接続して下さい。

■外部機器で、アラーム入力(ALARM INPUT)とアラームキャンセル(ALARM CANCEL)が使用できない場合、接続する必要はありません。

4．パソコンを用いて運用するための接続

RS-232C との接続

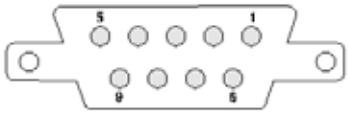
A.通信方法

●データコード： ASC II コード

●プロトコル： 8bit データ、1 ストップ bit、ノンパリティ

●伝送速度： 4800、9600、19200、38400bps.

B.RS-232C 端子(D-SUB 9 ピン)とピンの仕様



Pin No	Pin Specifications
2	TXD (Transmitted Data)
3	RXD (Received Data)
5	SG (Signal Ground)
1, 4, 6~9	NO Connection

RS-485 との接続

RS-485 との接続を通して遠隔制御(最長 1.2km まで)が可能です。

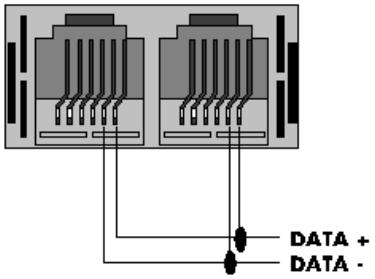
A.通信方法

●データ通信方法： Start-Stop 同調シリアルインターフェイス

●プロトコル： 8bit データ、1 ストップ bit、ノンパリティ

●伝送速度： 4800、9600、19200、38400bps

B.RS-485 端子とピンの仕様



C.データフォーマット (サムスンプロトコル)

( ) : Byte numbers

9 Byte Fixed

Start Code(AOH) (1)	Start Addr. (1)	Target Addr. (1)	Command (5)	Check Sum (1)

Data Byte	Type	Contents	Remarks
Byte 1	Start Code	0xAO	Start of Data Packet
Byte 2	Sender Addr.	Transmission Address	Source Range(0x00～0xFF)
Byte 3	Target Addr.	Reception Address	Destination Range(0x00～0xFF)
Byte 4	Command	Only Image Recorder Command	0x0A
Byte 5		Key Function	Range(0x01～0xFF)
Byte 6		0xFF	0xFF
Byte 7		0xFF	0xFF
Byte 8		0xFF	0xFF
Byte 9	Check Sum	Lower byte of (0xffff - (values adding Byte 2～Byte 8))	

D. キーによるコード値

Function	Byte 1	Byte 2	Byte 3	Byte 4	Byte 5	Byte 6, 7, 8	Byte 9	Response (Byte 5)
[SET COMMAND]								
MENU	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x01	0xFF	Check Sum	0x01
SEARCH	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x02	0xFF	Check Sum	0x02
SET/STILL	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x03	0xFF	Check Sum	0x03
UP	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x04	0xFF	Check Sum	0x04
DOWN	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x05	0xFF	Check Sum	0x05
LEFT	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x06	0xFF	Check Sum	0x06
RIGHT	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x07	0xFF	Check Sum	0x07
PLAY	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x08	0xFF	Check Sum	0x08
STOP	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x09	0xFF	Check Sum	0x09
RECORD	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x0A	0xFF	Check Sum	0x0A
REC LOCK	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x0B	0xFF	Check Sum	0x0B
F.Shuttle 1	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x0C	0xFF	Check Sum	0x0C
F.Shuttle 2	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x0D	0xFF	Check Sum	0x0D
F.Shuttle 3	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x0E	0xFF	Check Sum	0x0E
F.Shuttle 4	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x0F	0xFF	Check Sum	0x0F
F.Shuttle 5	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x10	0xFF	Check Sum	0x10
F.Shuttle 6	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x11	0xFF	Check Sum	0x11
F.Shuttle 7	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x12	0xFF	Check Sum	0x12
F.Shuttle 8	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x13	0xFF	Check Sum	0x13
R.Shuttle 1	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x14	0xFF	Check Sum	0x14
R.Shuttle 2	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x15	0xFF	Check Sum	0x15
R.Shuttle 3	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x16	0xFF	Check Sum	0x16
R.Shuttle 4	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x17	0xFF	Check Sum	0x17
R.Shuttle 5	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x18	0xFF	Check Sum	0x18
R.Shuttle 6	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x19	0xFF	Check Sum	0x19
R.Shuttle 7	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x1A	0xFF	Check Sum	0x1A
R.Shuttle 8	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x1B	0xFF	Check Sum	0x1B
R.JOG	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x1C	0xFF	Check Sum	0x1C
F.JOG	0xA0	Src.Addr	Dest.Addr.	0x0A	0x1D	0xFF	Check Sum	0x1D

E. その他

●上記のデータフォーマットと伝送速度は機器や通信環境の進歩によって将来的に変わる事があります。

●データの伝送／受信においてパソコンはマスター、対象の機器はスレイブとして動作します。

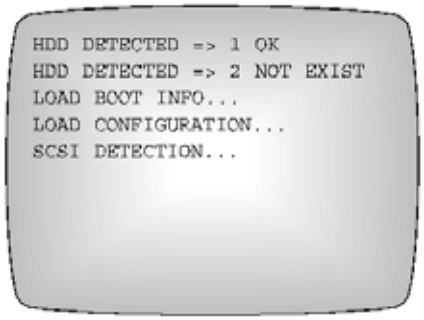
●設定キー機能以外の条件は受け入れません。しかし、一連の記録された内容を含んでいるという条件で、常にアラーム機能で受け入れられます。（伝送速度により、多少の遅れが生じることがあります。）

III. 基本的な使い方

1. システムの起動

電源 ON

本機背面の右上部に電源スイッチがあります。電源スイッチを押し上げてシステムを起動させて下さい。前面の LED が点灯して、下記のメッセージが表示された青色の画面が現れ、システムが起動します。



電源を入れると、青色の画面が現れ、ハードディスクの検索を始めます。上の画面に表示されているメッセージは本体に設置されているハードディスクに関する説明です。本体には2つのハードディスクを搭載することができ、1つは正しくインストールされていますが、もう1つはまだインストールされていないことを表わしています。2つめのハードディスクがインストールされると“HDD DETECTED⇒2OK”のメッセージが表示されます。

起動が終了すると、下ようなのライブ画面が表示されます。

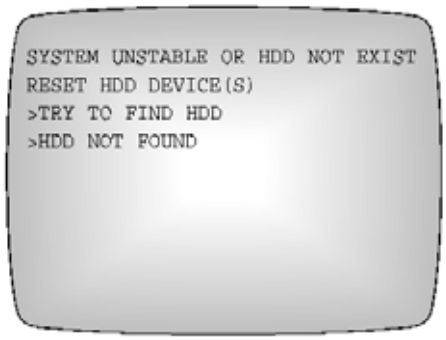
⚠ 注意

インストールした SCSI ハードディスクの検索は起動過程においてのみ可能です。本機は SCSI ケーブルをインストールしても、電源が ON になっている間は SCSI を認識できません。SCSI ハードディスクをインストールする前に本機の電源をお切り下さい。

入力される映像信号の識別

SHR-3010 は、入力ポートで接続されたビデオ信号が NTSC 信号か PAL 信号かを起動時に自動的に識別します。
入力ポートにビデオ信号を接続せずに電源を入れると、システムは最後に入力された信号を記憶しており、それに従って環境が設定されます。例えば、最後に入力ポートに接続されたビデオ信号が NTSC 信号であれば、システムは NTSC に合うように設定されます。PAL 信号の場合も同様です。しかし、入力ポートに現在接続されているビデオ信号と違うタイプのビデオ信号が突然接続された場合、つまり NTSC 信号を受け入れる環境になっている本機に PAL 信号が接続された、あるいは PAL 信号を受け入れる環境になっている本機に NTSC 信号が接続された場合、正しく動作しません。そのような場合には、電源を切って新たに信号を接続し、その信号を認識するよう設定するために再度電源を入れて下さい。
もし、ハードディスクを設置せずに電源を入れると、下のようなエラーメッセージ（「ハードディスクが見つかりません」という内容）のエラーメッセージが表示されます。

そして下記イラストに示されるように自動的にハードディスクを検索し続けます。この時にハードディスクを取り付けるとそれを識別し、起動過程が終了し、ライブ画面が表示されます。



電源 OFF

電源を切るにはスイッチを押し下げて下さい。記録中に電源が切れた場合、次に電源を入れて起動が完了すると記録を再開します。

⚠ 注意

いったん電源を切った後は再度電源を入れる前に、少なくとも 3 秒間はお待ち下さい。本機が正しく作動しないことがあります。

2. 基本画面を見る

全画面を見る

全画面上に表示されるアイコンとその説明は下記の通りです。

◎	記録状態の時、◎アイコンが点滅します。ただし、ライブ画面の状態では点滅しません。
	アラームにより記録状態になると、 アイコンが表示されます。 アラーム記録状態の間 アイコンは点滅し続けます。
	モーションディテクターの検知により記録状態になると、 アイコンが表示されます。モーションディテクター検知状態の間 アイコンは点滅し続けます。
	タイマーにより記録状態になると、 アイコンが表示されます。
	レコーディングロック状態の時、 アイコンが表示されます。
	LAN を経由して遠隔監視ソフトウェアに接続されている時に表示されます。
1	記録状態の時、1アイコンが点滅します。ただし、ライブ画面状態では点滅しません。映像が保存されているハードディスクに表示されます。ハードディスクが1つしかインストールされていない場合、アイコンは常に1つです。しかし、ハードディスクが2つある場合、1つめのハードディスクが一杯になると、データが2つめのハードディスクに保存され、アイコンが2に変更されます。
	SCSI ハードディスクは本体背面の SCSI コネクターを通して検出されます。
	上側の矢印はハードディスク内部に保存された記録データの相関位置を示し、下側の矢印は現在再生しているデータの相関位置を示しています。後に続く矢印は、一般のライブ画面と記録画面に隠れています。
上記のシステム状態を表わすアイコンの表示位置は変更が可能で、上部の左右の端に表示するよう設定できます。(CLOCK/DISPLAY MODE SET UP メニューの STATUS POSITION で LEFT または RIGHT を選択して下さい。) 詳しくは P.41 を参照して下さい。	

2001-08-22 18:19:12	設定されている現在の日付と時間を示します。日付と時間の表示位置は変更でき、上部の左右端に表示させるよう設定できます。（CLOCK/DISPLAY MODE SET UP メニューで LEFT もしくは RIGHT を選択して下さい。詳しくは P. 41 を参照して下さい。）
▶X2	再生モードの際、 ▶ アイコンが表示されます。一時停止状態の時は ▮▮アイコンに変わります。保存されているデータはいろいろな速さで再生できます。通 常の早さ以外で再生すると ▶ アイコンの右側に速度が表示され、同じように逆再生を行なうと ◀ アイコンの右側に速度が表示されます。再生および逆再生のスピードは通常の 1/5、1/2、1、2、5、10、20 倍です。
2001-09-24 00:23:44	現在再生しているデータが記録された日付と時間を表わします。日付と時間の表示位置は変更できます。ユーザーは、下部の左右の端に表示させるよう設定できます。（RECORD MODE SET UP メニューの TIME MARK POSITION の LEFT か RIGHT で選択して下さい。）

ライブ画面を見る

通常ライブ画面は下のようになります。

◎	**記録状態の時は◎アイコンが点滅します。ただし、ライブ画面の状態では点滅しません。**
1	**記録状態の時は 1アイコンが点滅します。ただし、ライブ画面状態では点滅しません。映像が保存されているハードディスクを表わします。ハードディスクが1つしかインストールされていない場合、アイコンは常に1つです。しかし、ハードディスクが2つある場合、1つめのハードディスクが一杯になると、データは2つめのハードディスクに保存され、アイコンが2に変更されます。**
	ハードディスク内部に記録されたデータの相関位置を表わします。
2001-09-15 07:14:55	**設定された現在の日付と時間を表わします。**

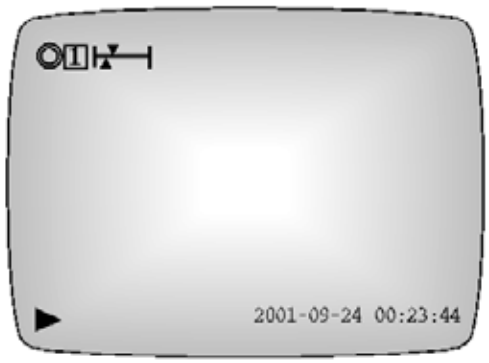
記録中の画面を見る

通常の記録画面は下のようになります。

◎	記録機能が動作している場合、◎アイコンが点滅します。
	アラームにより記録状態になると、 アイコンが表示されます。アラーム状態の間 アイコンは点滅します。
	モーションディテクターの検知により記録状態になると、 アイコンが表示されます。モーションディテクター検知状態の間 アイコンは点滅します。
	タイマーにより記録状態になると、 アイコンが表示されます。
	レコーディングロック状態の時、 アイコンが表示されます。
	LAN を経由して遠隔監視ソフトウェアに接続されている時に表示されます。

再生画面を見る

通常の再生画面は下のようになります。

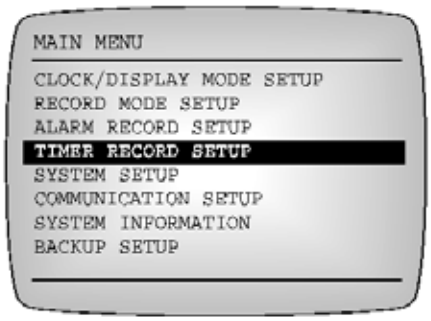


	上側の矢印はハードディスク内部に保存されている記録データの相関位置を表わし、下側の矢印は現在再生しているデータの相関位置を示しています。
▶	再生モードの時、 ▶ アイコンが表示されます。一時停止状態の際は ▮▮ アイコンに変わります。保存されているデータはいろいろな速さで再生できます。通常の速さ以外で再生すると ▶ アイコンの右側に速度が表示され、同じように逆再生を行なうと ▶ アイコンの左側に速度が表示されます。再生および逆再生のスピードは通常の 1/5、1/2、1、2、5、10、20 倍です。
2001-09-24 00:23:44	現在再生されているデータが記録された日付と時間を表わしています。

3. メニュー画面

メニューへの移行

メニューボタンを押すと、下の画面が表示されます。



メモ

ライブ画面モードの時のみメニューに移行することができます。記録モードや再生モードのときはメニューへは移行できません。メニューへ移行するにはまず記録または再生を停止して下さい。

メニューの移動

UP(▲)もしくは DOWN(▼)ボタンを使ってご希望のメニュー項目に移動して下さい。選択された項目で反転して表示されます。SET/STILL(⏎/II)ボタンを押すとサブメニュー項目が表示されます。選択項目が左側に表示され、選択項目の設定値が右側に表示されます。

メモ

通常は UP(▲)もしくは DOWN(▼)ボタンを使ってご希望のメニュー項目に移行できますが JOG(◯)を使用することもできます。カーソルを下方向へ動かすには JOG(◯)を反時計回りに回し、カーソルを上方向に動かすには時計回りに回します。

設定の変更

①UP(▲)もしくは DOWN(▼)ボタンを使ってご希望のメニューに移動して下さい。

②SET/STILL(⏎/⏸)ボタンを押して設定を変更できます。

③設定を変更するには UP(▲)もしくは DOWN(▼)ボタンを押して下さい。

④ご希望の設定を選択した後、SET/STILL(⏎/⏸)ボタンを押すと設定が変更されます。

メモ

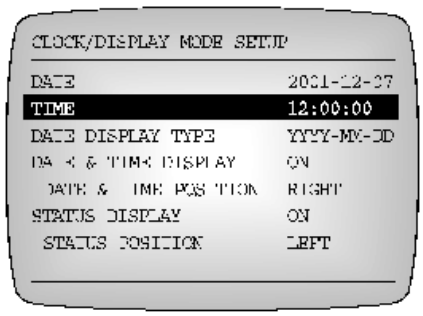
通常、UP (▲) もしくは DOWN (▼) ボタンを使って設定を変更できますが、ジョグ(◯)も使用できます。

1つ上のメニューに移行するもしくはメニューを終了する

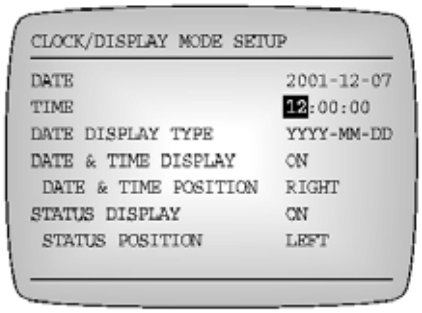
1つ下のメニューから元のメニューに移行もしくはメニューを終了するには MENU ボタンを押して下さい。

メニュー設定の例 (時間を変更する場合)

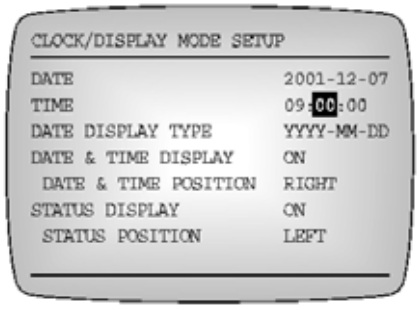
①メニューボタンを押して、カーソルが CLOCK/DISPLAY MODE SETUP で反転している時 SET/STILL(⏎/⏸)ボタンを押して下さい。下の画面が表示されます。



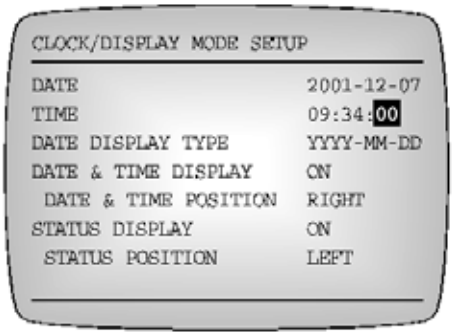
②DOWN(▼)ボタンを押すとカーソルが TIME で反転します。SET/STILL (⏎/⏸) ボタンを押すとカーソルが移動し、時間を変更できます。



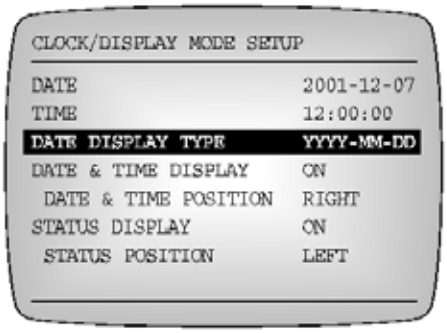
③UP(▲)または DOWN(▼)ボタンを押すと、現在の時間「時」の数値が変更されます。RIGHT (▶▶) ボタンを押すとカーソルが移動し、「分」を変更できます。



④同様にUP(▲)もしくはDOWN(▼)ボタンを押すと「分」の数値が変更されます。LEFT（ ◀◀ ）もしくは RIGHT(▶▶)ボタンを押すとカーソルが移動し、「時」または「秒」が変更できます。例えば、RIGHT（ ▶▶ ）ボタンを押して秒を変更し、UP(▲)または DOWN(▼)ボタンを押して秒の数値を変更すると現在の時刻に合わせる事ができます。

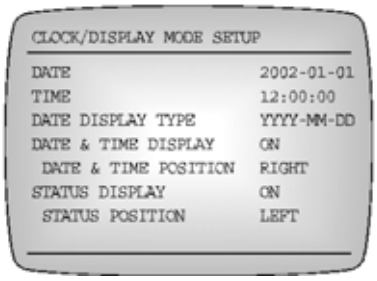


⑤時間を設定後、SET/STILL(⏎/II)ボタンを押し、DOWN（▼）ボタンを押すと、カーソルの位置が下のように変更されます。LEFT(◀◀)または RIGHT(▶▶)ボタンを押すと日付の表示形式を他の設定に変更できます。

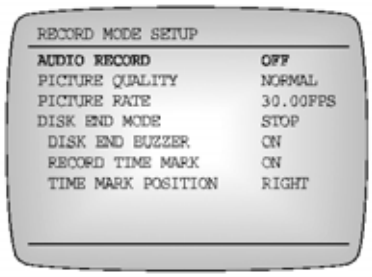


各メニュー項目

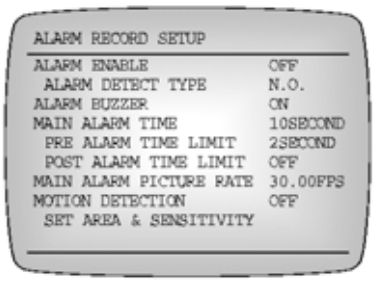
①日付、時間、画面設定



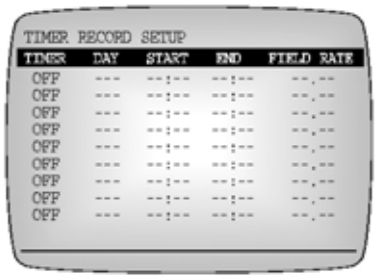
②記録設定



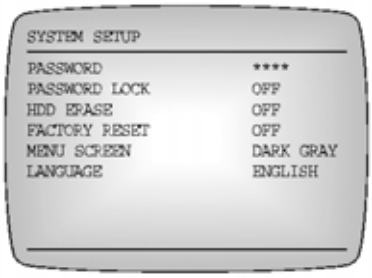
③アラーム記録設定



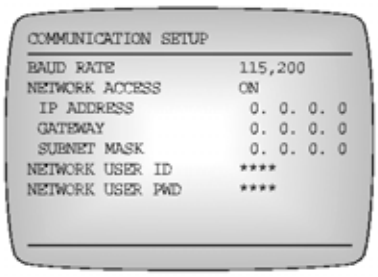
④予約設定



⑤システム設定



⑥通信設定



⑦システム情報

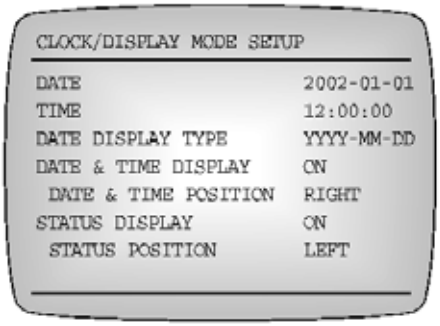
⑧SCSI ハードディスクアップバックアップ

⚠ 注意

工場出荷時に、メニューの値が P.41 の画面のように設定されています。

4. 日付、時間、画面設定

下のイラストは日付、時間、画面設定メニューの初期設定の画面です。



①DATE

現在の日付を設定します。

②TIME

24 時間形式入力できます。

⚠ 注意

現在の日付と時間に設定して下さい。

③DATE DISPLAY TYPE

3 種類の日付表示形式があります。見やすい表示形式に設定して下さい。

【YYYY-MM-DD/DD-MM-YYYY/MM-DD-YYYY】

④DATE & TIME DISPLAY

ON に設定すると画面に時間と日付を表示し、OFF に設定すると表示しません。【ON/OFF】

⑤DATE & TIME POSITION

日付と時間が表示される画面で位置を設定して下さい。LEFT に設定すると画面の左上部に、RIGHT に設定すると右上部に表示されます。【LEFT/RIGHT】

⑥STATUS DISPLAY

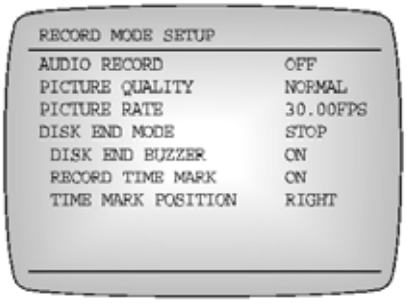
記録、システムロック、データが保存されているハードディスク、ハードディスクの残量、記録映像を再生している時の再生情報といったシステムの状態を表示させる場合は ON に、表示させない場合は OFF に設定して下さい。【ON/OFF】

⑦STATUS POSITION

システムの状態が表示される位置を設定して下さい。画面の左上部に表示させるには LEFT を、右上部に表示するためにはRIGHTを選択して下さい。【LEFT/RIGHT】

5. 記録設定

下のイラストは、記録設定メニューの初期設定です。



①AUDIO RECORD

映像と音声を同時に記録するには ON に、映像のみを記録するには OFF に設定して下さい。音声は映像のフィールド速度の記録に関わらず、6.3Kbps で入力され記録されます。

②PICTURE QUALITY

画質は 4 つのレベルに分かれています。最高画質は VERY HIGH に設定し、HIGH、NORMAL、LOW の順で画質は低くなります。ご希望の画質を選択できます。

【VERY HIGH/HIGH/NORMAL/LOW】

③PICTURE RATE

入力映像に応じてピクチャーレートを設定して下さい。入力映像信号が NTSC の場合、最大 60 FPS(Fields Per Second)で記録でき、PAL の場合、最大 50FPS で記録できます。

1）NTSC

【60.00FPS/30.00FPS/15.00FPS/10.00FPS/10.00FPS/7.50FPS/5.00FPS/2.50FPS/1.00FPS/0.50FPS】

2）PAL

【50.00FPS/25.00FPS/12.50FPS/8.33FPS/6.25FPS/5.00FPS/2.50FPS/1.00FPS/0.50FPS】

メモ

下の表は映像信号がそれぞれ NTSC と PAL である時、各フィールドを侵すことなく 40GB ハードディスクの容量が一杯になるのにどれくらいの時間がかかるかを示しています。

映像速度		Time-Lapse MODE			
		VERY HIGH	HIGH	NORMAL	LOW
		80 GB	80 GB	80 GB	80 GB
NTSC	60.0 FPS	11 H	13 H	19H	25 H
	30.0 FPS	22 H	26H	37H	49 H
	15.0 FPS	44 H	53H	74 H	99 H
	10.0 FPS	65 H	79 H	111 H	148 H
	7.5 FPS	87 H	106 H	148 H	198 H
	5.0 FPS	131 H	159 H	222 H	296 H
	2.5 FPS	261 H	317 H	444 H	593 H
	1.0 FPS	654 H	794 H	1,111 H	1,481 H
	0.5 FPS	1,307 H	1,587 H	2,222 H	2,963 H
PAL	50.0 FPS	13 H	19 H	27 H	36 H
	25.0 FPS	26 H	38 H	53 H	71 H
	12.5 FPS	52 H	76 H	107 H	142 H
	8.3 FPS	78 H	114 H	160 H	213 H
	6.3 FPS	105 H	152 H	213 H	284 H
	5.0 FPS	131 H	190 H	267 H	356 H
	2.5 FPS	261 H	381 H	533 H	711 H
	1.0 FPS	654 H	952 H	1,333 H	1,778 H
	0.5 FPS	1,307 H	1,905 H	2,667 H	3,556 H

④ DISK END MODE

●STOP を選択した場合、ハードディスクの容量を全て消費すると記録をストップします。

●CONTINUE を選択した場合、ハードディスクの容量を全て消費するとハードディスクの中にある既存のデータのうち一番古いデータから上書きして記録されます。ハードディスクに記録したデータが保存されている相関位置がバー形式で画面に表示されます。さらに、DISK END MODE が STOP に設定されているとハードディスクの残りの容量がパーセント(%)で表示されます。またハードディスクの空き容量がメニュー下に表示されます。ただし、CONTINUE に設定されていると表示されません。 【STOP/CONTINUE】

⑤DISK END BUZZER

ON に設定されていると、記録中ハードディスクの容量が一杯になるとブザーが鳴ります。OFF に設定されているとブザーは鳴りません。【ON/OFF】

⑥RECORD TIME MARK

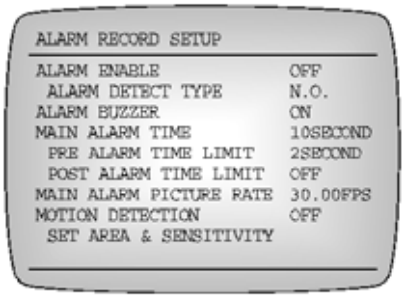
ON に設定されていると、再生時に記録が行なわれた時間が表示されます。OFF に設定されていると表示されません。【ON/OFF】

⑦STATUS DISPLAY

再生中画面に表示される、記録が行なわれた時間の位置を設定します。LEFT に設定されていると、画面左下に表示され、RIGHT に設定されていると画面右下に表示されます。

6．アラーム記録設定

下のイラストはアラーム記録設定メニューの初期設定です。



①ALARM ENABLE

アラームが発生した際に記録を開始するには ON に、アラームが発生しても記録しないようにするには OFF に設定します。ALARM ENABLE を ON に設定してメニューを終了すれば、アラームが発生すると記録を開始します。アラーム記録中に、強制的に記録を停止する場合は、STOP（■）ボタンを3秒間押し続けて下さい。現在発生しているアラームによる記録を停止し、5秒以内に新たにアラームが発生してもアラーム記録は行なわれません。

5秒間何も操作しなければ、アラーム記録モードに戻ります。【ON/OFF】

②ALARM DETECT TYPE

アラーム入力が ACTIVE HIGH の時は N.C.（常時閉）、ACTIVE LOW の時は N.O.（常時開）に設定して下さい。【N.C./N.O.】

③ARARM BUZZER

映像入力でモーションが検知された際やアラームが発生した際にブザーを作動させる時は ON、作動させない時は OFF に設定して下さい。【ON/OFF】

④MAIN ALARM TIME

映像入力でモーションが検知された際やアラームが発生した際に行なわれるアラーム記録の保持時間を設定します。OFF に設定すると、値は0秒～5分の間で設定でき、AUTO に設定すると、アラーム信号が発生している間のみ記録を行ないます。

【5MINUTE/4MINUTE/3MINUTE/2MINUTE/1MINUTE/30SECOND/20SECOND/10SECOND/AUTO/OFF】

⑤PRE ALARM TIME LIMIT

プリアラーム機能は映像入力でモーションが検知される以前もしくはアラームが発生する以前に即座に状況を把握できる重要な機能です。モーションが検知されるもしくはアラームが発生するどれくらい前の映像データを記録するかを設定します。約2～10秒前の映像データが常時本機の SDRAM に保存されており、モーションが検知されるかもしくはアラームが発生するとアラーム記録を開始すると同時に PRE ALARM TIME LIMIT で設定されたデータが SDRAM から読み取られ、ハードディスクに書き込まれます。ただし、SDRAM の容量には限りがあるため、PRE ALARM TIME LIMIT で設定される時間が増加すると、プリアラーム記録のフィールドレートは減少します。 【10SECOND/8SECOND/6SECOND/4SECOND/2SECOND/OFF】

⚠ 注意

本機が記録中は、アラームが発生しても PRE ALARM TIME LIMIT 設定は適用されません。PRE ALARM TIME LIMIT 設定は記録が行なわれていない時のみ適用されます。

⑥POST ALARM TIME LIMIT

映像入力でモーションが検知されたかもしくはアラームが発生した際に記録する映像データの量を設定します。まず MAIN ALARM TIME で設定された時間分記録し、次に POST ALARM TIME LIMIT で設定された時間分記録します。

【5MINUTE/4MINUTE/3MINUTE/2MINUTE/1MINUTE/30SECOND/20SECOND/10SECOND/AUTO/OFF】

メモ

下のイラストはアラーム発生時に基づくメインアラーム記録(MAIN ALARM TIME)、プリアラーム記録(PRE ALARM TIME LIMIT)およびポストアラーム記録（POST ALARM TIME LIMIT）の時制の関係を表わしています。

⑦MAIN ALARM PICTURE RATE

メインアラーム記録フィールドレートを設定します。入力映像信号が NTSC の際は最大 60FPS まで記録でき、PAL の際は最大 50FPS まで記録できます。

1）NTSC

【60.00FPS/30.00FPS/15.00FPS/10.00FPS/10.00FPS/7.50FPS/5.00FPS/2.50FPS/1.00FPS/0.50FPS】

2) PAL

【50.00FPS/25.00FPS/12.50FPS/8.33FPS/6.25FPS/5.00FPS/2.50FPS/1.00FPS/0.50FPS】

⑧MOTION DETECTION

ALARM ENABLE を ON に設定した時のみ、モーションを検知した時に記録を開始します。SET AREA と SENSITIVITY メニューでモーション検知について詳細の項目を設定できます。モーション検知により開始された記録を強制的に停止するには STOP (■) ボタンを3秒間押し続けて下さい。モーション検知による記録は5秒間停止します。記録を完全に停止するにはメニューの MOTION DETECTION の項目を OFF にして下さい。5秒間何も操作しないと本機はモーション検知による記録を再開します。【ON/OFF】

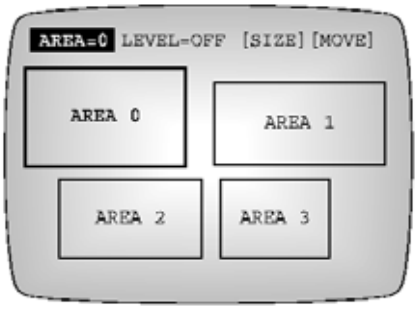
⚠ 注意

モーション検知により開始される記録モードを実行中、記録時間はアラーム記録のケースのようにメインアラーム記録(MAIN ALARM TIME)、プリアラーム記録(PRE ALARM TIME LIMIT)およびポストアラーム記録 (POST ALARM TIME LIMIT) で設定された時間によって決定されます

⑨SET AREA & SENSITIVITY

1) AREA

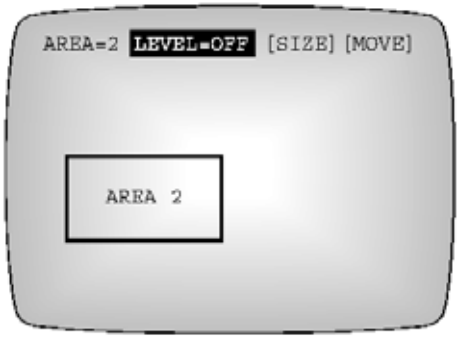
モーション検知エリアは合計4つあり、各エリアにおいて LEVEL、SIZE、MOVE を設定できます。下の画面が表示され、カーソルが AREA 項目で反転します。UP (▲) または DOWN (▼) ボタンを使ってご希望のエリア (AREA0～AREA3) を選択し、SET/STILL (⏎/II) ボタンを押して、LEVEL 項目に移行し、選択したエリアの感度レベルを設定して下さい。【0/1/2/3】



2) LEVEL

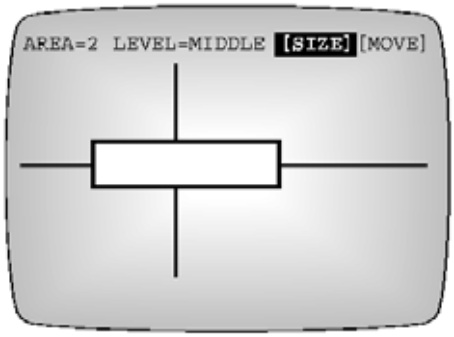
モーションに対する感度は LOW～HIGH+または OFF に設定できます。HIGH に近いほどモーションに対する感度が高くなり、LOW に近いほど感度は低くなります。UP (▲) または DOWN (▼) ボタンを使って感度レベルを選択し、SET/STILL (⏎/II) ボタンを押して、モーション検知エリアのサイズを設定するための SIZE の項目へ移行して下さい。

【OFF/LOW/LOW+/MIDDLE/MIDDLE+/HIGH/HIGH+】



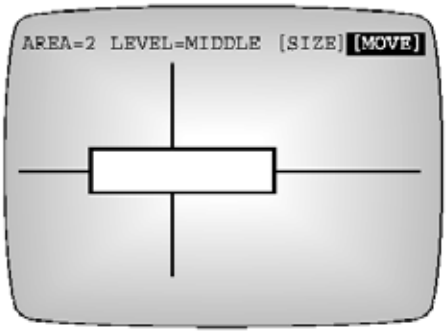
3) SIZE

現在選択されているエリアのサイズを設定します。たてのエリアサイズを増やすには UP (▲) ボタンを、減らすには DOWN (▼) ボタンを押して下さい。横のエリアサイズを増やすには RIGHT (▶▶) ボタンを、減らすには LEFT (◀◀) ボタンを押して下さい。サイズを設定したら SET/STILL (↵/II) ボタンを押して MOVE 項目を設定できるようカーソルを移動して下さい。



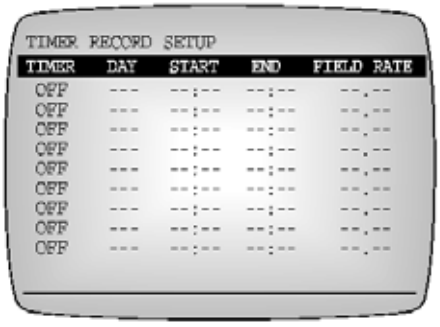
4) MOVE

現在選択されているエリア位置を設定します。UP (▲) または DOWN (▼) ボタンを使ってたてのエリア位置を変更し、LEFT (◀◀) または RIGHT (▶▶) ボタンを使って横のエリア位置を変更して下さい。全ての設定が終了したら、SET/STILL (↵/II) ボタンを押して他のエリアの各項目が設定できるよう AREA 項目へカーソルを移動させて下さい。



7. 予約記録設定

下のイラストは予約記録設定メニューの初期設定です。



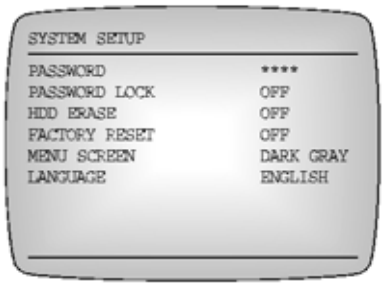
●タイマー記録を使うと、その場にいなくてもご希望の日付のご希望の時間にご希望のフィールドレートで自動的に記録を行なうことができます。

UP（▲）またはDOWN（▼）ボタンを押して設定するTIMERの行を指定し、LEFT（ ◀◀ ）またはRIGHT（ ▶▶ ）ボタンを押して、指定した行のTIMER列のONとOFFを切り替えて下さい。ONに設定したら、LEFT（ ◀◀ ）またはRIGHT（ ▶▶ ）ボタンを押してDAYの列を指定してUP（▲）またはDOWN（▼）ボタンを押してご希望の日を選択して下さい。同じ要領でSTARTおよびENDの列から記録開始時間および記録終了時間をそれぞれ入力して下さい。またFIELD RATEの列において記録中に適用されるフィールドレートを設定して下さい。

DAYをSUNからSATまでのいずれかに設定するとタイマー記録は該当する曜日にのみ適用されますが、DAILYに設定するとタイマー記録はその週の全ての曜日に適用されます。FIELD RATEは入力映像信号がNTSCの場合0.50FPSから60FPS、PALの場合0.50から50FPSの間で設定できます。いったんタイマー記録が設定されると該当する日の入力した時間の間記録が行なわれます。フィールドレートを除く他の記録設定は基本記録設定にしたがいます。記録を強制的に停止するにはSTOP（■）ボタンを３秒間押し続けて下さい。記録は５秒間停止します。何も操作が行なわれないと、本機はタイマー記録設定の時間を経過しているかどうかを判断して、記録を再開するかどうかを決定します。記録を完全に停止するには５秒以内にメニューへ移行し、該当する行のTIMER項目をOFFに設定して下さい。タイマー記録では１１の異なる時間を設定できます。

8. システム設定

下のイラストはシステム設定メニューの初期設定を表わしています。



①PASSWORD

パスワードを設定します。4ケタの数字を入力できます。初期値は 0000 です。

②PASSWORD LOCK

ON に設定した場合、記録中にメニューボタンを押すかまたはレコーディングロックを中止しようとするとパスワードを尋ねられます。間違ったパスワードを入力すると各操作はストップします。OFF に設定した場合、上記の操作の時でもパスワードの入力の必要はありません。[ON/OFF]

③HDD ERASE

ON に設定してメニューを終了すると、ハードディスクに保存された全データを削除します。[ON/OFF]

⚠ 注意

削除したデータは復活できません。削除する前に OK を選択するかもう一度ご確認下さい。

④FACTORY RESET

ON に設定してメニューを終了すると、全ての設定が工場出荷時の設定にリストアされます。ただし、ハードディスクのデータは削除されません。[ON/OFF]

⑤MENU SCREEN

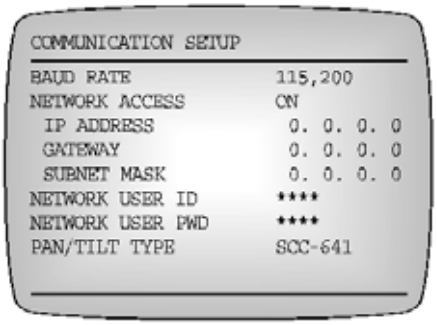
メニューボタンを押した時、文字がはっきりと見えない場合、DARK GREY に設定すると、画面の背景が暗くなります。OFF に設定すると、メニューボタンを押した時でも画面の背景の映像は暗くなりません。[DARK GRAY/OFF]

⑥LANGUAGE(多国語サポート)

英語以外にドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語をサポートしています。工場出荷時は英語に設定されています。[ENGLISH/DEUTSCH/FRANCAIS/ESPANOL/ITALIANO]

9. 通信設定

下のイラストは通信設定メニューの初期設定を表わしています。


COMMUNICATION SETUP
BAUD RATE 115,200
NETWORK ACCESS ON
IP ADDRESS 0. 0. 0. 0
GATEWAY 0. 0. 0. 0
SUBNET MASK 0. 0. 0. 0
NETWORK USER ID ****
NETWORK USER PWD ****
PAN/TILT TYPE SCC-641

①BAUD RATE

RS-232C 通信におけるデータの伝送速度を設定します。

[4,800/9,600/19,200/38,400/115,200]

②NETWORK ACCESS/IP ADDRESS/GATEWAY/SUBNET MASK

LAN に接続されていると、遠隔地のパソコンにインストールされている遠隔監視プログラムで本機を制御できます。LAN に接続するには NETWORK ACCESS を ON にして、ユーザーのネットワーク環境を適合させるため、IP ADDRESS、GATEWAY、SUBNET MASK 等を設定して下さい。次に本機背面の LAN ケーブル接続端子に LAN ケーブルを接続した後、本機を再起動して下さい。IP ADDRESS、GATEWAY、SUBNET MASK のうちいずれかひとつでも設定を変更したら、設定を有効にするため、再起動しなければいけません。

③NETWORK USER ID/NETWORK USER PWD

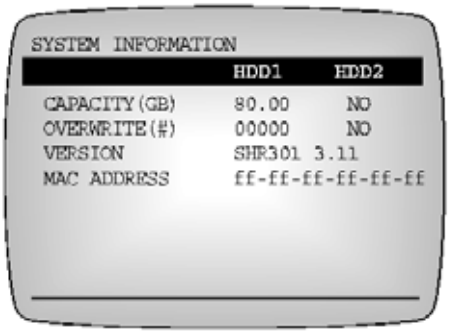
遠隔地のパソコンにインストールされている遠隔監視プログラムで LAN を経由して本機にアクセスするためには、ユーザーID およびパスワードを入力する必要があります。入力するユーザーID およびパスワードが NETWORK USER ID および USER PWD で設定されたものと適合すると、本機に接続されます。いずれも 4 ケタの数字からなり、初期値は 0000 です。

④PAN/TILT TYPE(カメラの遠隔制御)

LAN を経由して遠隔地のパソコンにインストールされている遠隔監視プログラムでカメラの PAN/TILT/ZOOM 機能を制御できます。制御するカメラを選択して下さい。ただし、サムスンのプロトコルを使用しているカメラ－SEC SCC-641、643 および SCC-421 シリーズ（C4201、C4203、C4310、C4303）－のみに適用されます。遠隔監視プログラムで制御できるカメラを選択することができます。遠隔監視プログラムの詳しい説明については Remote Monitoring Program 取扱説明書を参照して下さい。[SCC-641/SCC-421]

10. システム情報

下のイラストはシステム情報メニューの初期設定を表わしています。



●基本システム情報を表示しています。

ハードディスクの各 CAPACITY（GB: ギガバイト）および RECORD MODE SETUP メニューの DISK END MODE が OVERWRITE に設定されていると、現在までに何度ハードディスクが上書きされたかについての情報を CAPACITY(GB)および OVERWRITE(#)で見ることができます。

VERSION は本機にインストールされたソフトウェアのバージョンを表わし、MAC ADDRESS は本機に入力された MAC アドレスを表わします。

11. SCSI ハードディスクバックアップ

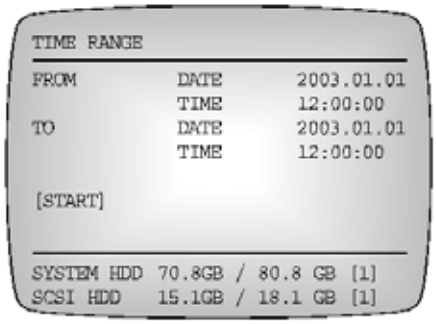
本機のメインハードディスクに保存されている映像、音声信号をバックアップまたは再生する目的で本機を外部 SCSI ハードディスクに接続することができます。外部 SCSI ハードディスクは本機の唯一のバックアップ機器になります。

下記のイラストは SCSI ハードディスクバックアップ設定メニューを表わしています。

BACKUP SETUP は SCSI を経由して外部 SCSI ハードディスク内にメインハードディスクに保ささされている映像または音声信号をバックアップまたは再生します。

(1) TIME RANGE

BACKUP SETUP メニューで TIME RANGE を選択すると TIME RANGE 設定画面が表示されます。SCSI ハードディスクに、指定された期間内のみの映像および音声信号を保存できるよう、バックアップするデータの開始時刻および終了時刻を指定して下さい。



ジョグ (◯) または UP (▲)、DOWN (▼) ボタンを押してカーソルを移動して下さい。選択された項目が反転します。SET/STILL ボタン (⏎/II) を押し、次に LEFT (◀◀) または RIGHT (▶▶) ボタンを押して、次の項目 (DATE または TIME) に移動して下さい。次にジョグ (◯) または UP (▲)、DOWN (▼) ボタンを押してバックアップする映像の日付、開始時刻および終了時刻を入力し、SET/STILL ボタン (⏎/II) を押して選択を終了して下さい。

①FROM DATE 2003.01.01 (バックアップ開始日付)

ハードディスクに保存されている映像および音声信号を SCSI ハードディスクへバックアップする開始日付を設定できます。

②TIME 12:00:00 (バックアップ開始時刻)

ハードディスクに保存されている映像および音声信号を SCSI ハードディスクへバックアップする開始時刻を設定できます。

③TO DATE 2003.01.01 (バックアップ終了日付)

ハードディスクに保存されている映像および音声信号を SCSI ハードディスクへバックアップする終了日付を設定できます。

④TIME 12:00:00 (バックアップ終了時刻)

ハードディスクに保存されている映像および音声信号を SCSI ハードディスクへバックアップする終了時刻を設定できます。

⑤SYSTEM HDD 70.8GB/80.8GB[1] (本体ハードディスクの総容量と空き容量)

本機のハードディスクの容量を表示します。表示メッセージは 80.8GB の容量を持つハードディスク (空き容量 70.7GB／総容量 80.8GB) であり、[1]は全部で2つのハードディスクを搭載でき、現在1番目のハードディスクを使用していることを表わしています。

“70.8GB”の表示は総容量 80GB のうち 10GB を消費したことを意味します。

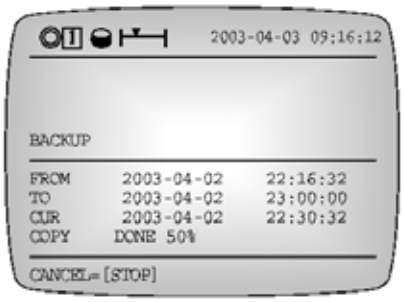
⑥SCSI HDD15.1GB/18.1GB[1] (外部 SCSI ハードディスクの総容量と空き容量)

本体背面の SCSI 端子に接続された SCSI ハードディスクの数と容量を表示します。表示メッセージは 18.1GB の容量を持つハードディスク (空き容量 15.1GB／総容量 18.1GB) であり、[1]は全部で2つの外部ハードディスクを接続することができ、現在1番目のハードディスクを使用していることを表わしています。“15.1GB”の表示は総容量 18.1GB のうち 3GB を消費したことを意味します。

⑦START (バックアップ開始)

バックアップの開始および終了日付／時刻を入力した後、ジョグ ( ) または UP (▲)、DOWN (▼) ボタンを押して、START に移動して下さい。START が反転したら SET/STILL ボタン ( ) を押して下さい。バックアップされるハードディスクから映像データを検索する“SEARCH”の文字が表示され、バックアップを開始します。

⑧BACKUP 画面



a FROM 2003-04-02 22:16:32 (バックアップ開始時刻を表示)
バックアップを開始する時刻が表示されます。

b TO 2003-04-02 23:00:00 (バックアップ終了時刻を表示)
バックアップを終了する時刻が表示されます。

c CUR 2003-04-02 22:30:32 (現在バックアップ中の時刻を表示)
現在バックアップ中の時刻が表示されます。

d COPY DONE 50% (バックアップ容量の表示)
バックアップされた量を表示します。

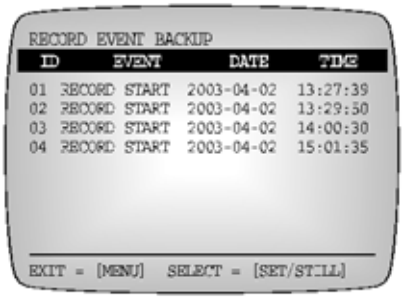
E CANCEL=[STOP]
バックアップを途中で止めるには STOP[■]ボタンを押して下さい。ストップボタンを押さない場合、１００%選択された容量をバックアップすると自動的に停止し、SCSI 画面を終了して、ライブ画面を表示します。

⚠ 注意

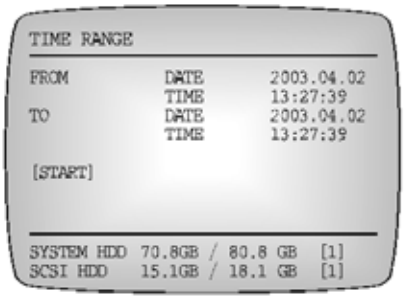
- SCSI バックアップ中は本機本体のハードディスクで記録、再生は行なえません。また LAN を経由した通信も行なえません。
- バックアップ画面に表示される日付および時刻は本機がハードディスクに記録を行なった時の日付、時刻を表わしています。
- バックアップは SCSI ハードディスクの終了まで続き、次に SCSI ハードディスクを替えてもしくは同じ SCSI ハードディスクに記録を続けます。
- SCSI ハードディスクからの映像を検索または再生している間はモーションを検知しません。ただし、メインハードディスクの映像情報を SCSI ハードディスクにバックアップしている間はモーション検知が利用できます。

(2) FROM RECORD EVENT RIST (記録イベントリストからのバックアップ)

記録を行なうため、本機ハードディスクの RECORD (●) ボタンを押すかまたはデータを長期間記録すると、一定の間隔でイベントリストが作成されます。記録においてこの機能を使うと TIME RANGE BUCKUP よりも容易にバックアップ位置を検出することができます。下のイラストは FROM RECORD EVENT LIST の詳しい設定画面を表わしており、EVETN (RECORD START)、時間、日付はハードディスク記録に基づいています。メニューボタンを押すと、FROM RECORD EVENTLIST 画面を終了し、メニュー画面が表示されます。



ジョグ (◯) または UP (▲)、DOWN (▼) ボタンを押してカーソルを移動して下さい。選択した項目が反転します。バックアップするための EVENT LIST 部分に移行したら、SET/STILL ボタン (⏎/II) を押して下さい。下の画面が表示されます。下の画面は上のイラストで ID01 を選択した際の例を表わしています。



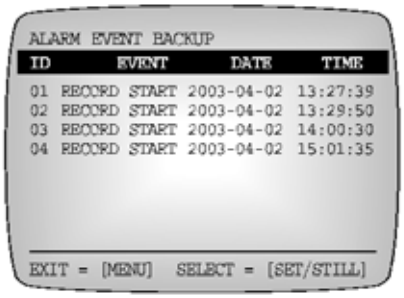
上の画面の詳細については P.53 “TIME RANGE”を参照して下さい。

TIME RANGE の使い方に従って日付および時刻を設定し、ジョグ (◯) または UP (▲)、DOWN (▼) ボタンを押して上の画面の[START]の項目にカーソルを移動し、SET/STILL (⏎/II) ボタンを押して下さい。バックアップを開始するためのバックアップ画面が表示されます。

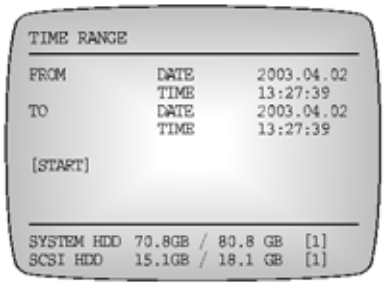
バックアップ画面の詳細については P.55 を参照して下さい。

(3) FROM ALARM EVENT LIST (アラームイベントリストによるバックアップ)

FROM ALARM EVENT LIST BACK UP は、アラームまたは動作検知により作成されたアラームイベント時刻の映像および音声データをメインハードディスクから外部 SCSI ハードディスクにバックアップするために用いられます。下のイラストは FROM ALARM EVENT LIST の詳しい設定手順を表わしており、EVENT(RECORD START)、日付、時刻はハードディスクの記録に基づいています。MENU ボタンを押すと FROM ALARM EVENT LIST 画面を終了し、メニュー画面が表示されます。



ジョグ ( ) または UP (▲) 、DOWN (▼) ボタンを押してカーソルを移動して下さい。選択された項目が反転します。バックアップを行なうために EVENT LIST 部分に移行したら、SET/STILL ボタン (⏎/II) を押して下さい。下の画面が表示されます。下の画面は上の画面で ID01 を選択した際の例を表わしています。



上の画面の詳細については P.53 “TIME RANGE”を参照して下さい。

TIME RANGE の使い方に従って日付および時刻を設定し、ジョグ ( ) または UP (▲) 、DOWN (▼) ボタンを押して上の画面の[START]の項目にカーソルを移動し、SET/STILL ボタン (⏎/II) を押して下さい。バックアップを開始するためのバックアップ画面が表示されます。

バックアップ画面 の詳細についてはP.55を参照して下さい。

(4) SEARCH & PLAY OF BACK UP (バックアップ映像の検索と再生)

SEARCH & PLAY OF BACK UP は SCSI ハードディスクにバックアップされた映像の検索および再生に使用します。下の画面は SEARCH&PLAY OF BACK UP の詳しい設定画面を表わしており、EVENT(RECORD START)、DATE、TIME はハードディスクに記録された日付および時間を表わしています。画面を閉じるには MENU ボタンを押して下さい。メニュー画面が表示されます。

SEARCH & PLAY OF BACK UP を使用する際は、バックアップ機器のメモリーからご希望の映像のみを選択、再生することができます。ジョグ ( ) または UP (▲) 、DOWN (▼) ボタンを押してカーソルを移動して下さい。選択された項目が反転します。バックアップするための EVENT LIST 部分に移行し、SET/STILL ボタン (⏯) を押して下さい。SCSI ハードディスクから選択された EVENT の映像記録を検索し、その時の静止画像を表示します。PLAY (▶) ボタンを押すと、SCSI ハードディスクが映像を再生します。ジョグ ( ) またはシャトル ( ) を使うか LEFT (◀◀) または RIGHT (▶▶) ボタンを押すと、静止画像、スロー画像、高速画像を選択でき、便利な映像検索が行なえます。SCSI 再生中は、“SCSI PLAY”というメッセージが画面下に表示されます。SCSI 再生を終了するには、STOP (■) ボタンを押して下さい。ライブ映像が表示されます。画面下には“SCSI SELECTED EXIT=[STOP]”というメッセージが現れ、SCSI ハードディスクが選択されていることを知らせます。つまり、上のメッセージがひょうじされている時に PLAY (▶) ボタンを押すと、SCSI ハードディスクにバックアップされている映像が再生されます。SCSI 画面を終了するには STOP ボタンを押して下さい。

(5) OVERWRITE

OFFに設定されていると、データバックアップ中にSCSIハードディスクのデータが一杯になると、バックアップを一時停止し、ON に設定されていると、既存のデータに上書きしてバックアップを続けます。古いデータから上書きされます。[OFF/ON]

(6) SCSI ERASE (SCSI ハードディスク記録削除モード設定)

BACKUP SET UP メニューの中の SCSI ERASE は SCSI ハードディスクにバックアップされた全映像を消去するのに使用します。SCSI ERASEの項目が反転するまでジョグ ( ) または UP (▲) 、DOWN (▼) ボタンを押して下さい。SET/STILL ( ) ボタンを押すと、画面が黄色くなっている間、映像信号を消去します。

DELETE FILES 42%は、現在SCSIハードディスクの映像信号の42%が削除されたことを表わしています。削除が完了すると、自動的にライブ画面に切り替わります。[OFF/ON]

参考

- SCSI バックアップスピード: 3MB/秒

例) SCSI ハードディスクにおいて10分間の映像データをバックアップするのにかかる時間

1) VERY HIGH/60FIELD: 10分
2) HIGH/60FIELD: 約7分
3) NORMAL/60FIELD: 約5分
4) NORMAL/30FIELD: 約2．5分
5) LOW/30FIELD: 約2分

Ⅳ. 記録

1. 基本的な記録

基本的な記録

①現在の映像を記録

現在の映像を記録するには RECORD (●) ボタンを押して下さい。RECORD (●) ボタンが点灯して、記録を開始し、画面には下記のメッセージが表示されます。記録に関連する設定は RECORD MODE SETUP メニューで行なえます。

メモ

－ライブ画面モード、再生モードのいずれの時でも記録が可能です。ただし、ライブ画面モードの時は、現在表示されているライブ画面が記録されますが、再生モードの時は現在再生されている画面とは別に、現在入力されている映像が記録されます。

－メニューが表示されている間は RECORD (●) ボタンを押しても記録を開始しません。記録を開始するには、まずメニューを終了して下さい。

記録中に入力されている映像信号が遮断されると、記録が停止します。ただし、映像信号が再度入力されると、本機がそれを認識し記録を再開します。入力ポートに映像信号を接続せずに RECORD (●) ボタンを押すと、下記のメッセージが画面に表示され、記録は行なわれません。

②記録停止

記録を停止するには STOP (■) ボタンを3秒間押し続けて下さい。RECORD (●) ボタンが消灯し、画面下に下記のメッセージが表示されて記録を停止します。

メモ

記録中は MENU ボタンを押しても、メニュー画面は表示されません。記録中にメニューボタンを押すと、下記のメッセージが表示されます。メニュー画面を見るには、記録を停止しなくてはいけません。

2. レコードロック

レコードロック

記録している状態をロックするには記録中に REC LOCK ( ) ボタンを押して下さい。REC LOCK ステータス表示 LED と REC LOCK ( ) ボタンが点灯します。この状態の時には STOP (■) ボタンを押しても記録を停止しません。レコードロックモードの時は画面左上に アイコンが表示されます。(P.34 の“記録中の画面を見る”を参照して下さい。)

レコードロックの解除

レコードロックを中止するにはレコードロックモード中に REC LOCK ( ) ボタンを押して下さい。LOCK ステータス LED と REC LOCK ( ) ボタンが消灯します。この状態の時には STOP (■) ボタンを押すと、記録を停止します。SYSTEM SETUP メニューの PASSWORD LOCK が ON に設定されている場合、レコードロックを中止するにはパスワードを入力しなければいけません。SYSTEM SETUP メニューの PASSWORD に設定されたパスワードと入力したパスワードが一致すると、レコードロックを解除します。一致しない場合、レコードロックは解除されません。

3. アラーム記録

アラーム発生時の記録

本機の背面パネルには外部I/Oポートにアラーム入力端子(ALARM IN)があります。こことマルチプレクサ等の外部機器のアラーム出力とをつないで下さい。(接続に関する詳しい情報に関しては、P.22 “3. アラーム記録のためのシステム接続”を参照して下さい。) 次にアラームが発生したら記録を開始するようALARM RECORD SETUPメニューのALARM ENABLEをONに設定して下さい。またSET AREA & SENSITIVITYで設定されたエリア内でモーションが検知された時、アラーム記録を開始するようALARM RECORD SETUPメニューのMOTION DETECTIONをONに設定して下さい。

アラーム記録の解除

アラーム記録モード状態でない場合、アラーム記録モードを中止するには、ALARM RECORD SETUPメニューのALARM ENABLE およびMOTION DETECTIONをOFFに設定して下さい。
アラームにより記録を行なっている最中に記録を強制的に停止するには、STOP(■)ボタンを3秒間押し続けて下さい。現在のアラームによる記録が停止し、その後の5秒間はアラームが発生してもアラーム記録は行なわれません。アラーム記録を完全に停止するには、5秒以内に ALARM ENABLEをOFFに設定して下さい。5秒間何も操作が行なわれないと、アラーム記録モードに戻ります。

4. 予約記録

予約記録の設定

設定された日の設定された時間の間、記録が行なわれるよう TIMER RECORD SETUP メニューでタイマー記録を行なうための日付、時間、フィールドレートを入力できます。

予約記録の中止

タイマー記録モード状態でない時に、タイマー記録を中止するには、TIMER RECORD SETUP メニューで設定されているタイマー記録リストの中から、中止する TIMER の行を OFF に設定して下さい。ただし、記録中にタイマー記録を強制的に中止するには STOP (■) ボタンを3秒間押し続けて下さい。記録が5秒間一時停止します。5秒間何も操作しないと本機はタイマー記録設定の時間を経過しているかどうかを判断し、記録を再開するかどうかを決定します。記録を完全に停止するには5秒以内にメニューに移行し、該当する TIMER 項目を OFF に設定して下さい。

⚠ 注意

RECORD (●) ボタンを押して、記録を行っている時に記録を停止するには、STOP (■) ボタンを短く押して下さい。ただし、アラーム記録、モーション検知記録、タイマー記録を停止したい場合、強制的に記録を停止するには STOP (■) ボタンを3秒間押し続けて下さい。

本機はアラーム、モーション検知、タイマー記録モードによる記録状態にある場合、任意に記録を停止する特別な方法がなく、アラームまたはモーションが検知されないかまたはタイマー記録設定の時間が経過しないと記録中はメニューに移行することができませんが、STOP (■) ボタンを3秒間押し続けると、記録を完全に停止するためにメニュー設定を変更することが可能となります。

V. 検索と再生

1. 検索メニュー画面

検索メニューへの移行

記録したデータを検索するには SEARCH ボタンを押して下さい。
下の画面が表示されます。

メモ

- 本機がライブ画面モード、記録モードまたは再生モードの時は、全記録データを検索できます。
- 再生モードの場合、再生するために記録データを検索すると、どのデータが直前に再生されたかに関わらず、新たに検索されたデータが再生されます。
- メニューモード画面の時に SEARCH ボタンを押しても検索メニューは表示されません。検索メニューに移行するにはまずメニューを終了して下さい。

メニューの移動

UP (▲)、DOWN (▼) ボタンを使って、ご希望のメニュー項目に移動して下さい。選択された項目が反転して表示されます。次に SET/STILL (⏎/II) ボタンを押してサブメニューに移行して下さい。サブメニューにおいて、記録したデータからデータ検索または選択のための照会事項を入力して、ご希望のデータを再生することができます。

検索条件入力およびリスト項目選択

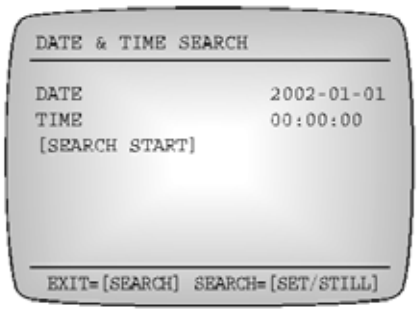
DATA & TIME SEARCH メニューからデータ検索のための照会事項を入力して、RECORD EVENT SEARCH および ALARM EVENT SEARCH メニューの記録データのリストから該当項目を選択してさい。データ検索のための照会事項の入力またはリストからの該当項目の選択は通常メニューのものと同様になります。

1つ上のメニューへの移動とメニューの終了

1つ下のメニューから上のメニューへ移動してメニューを終了するには SEARCH ボタンを押して下さい。

各メニュー項目

①時計／表示モード設定



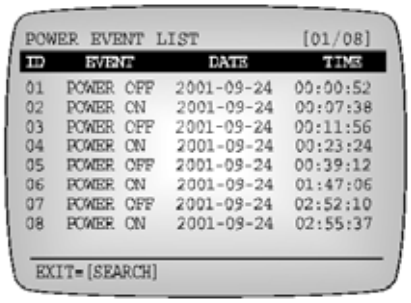
②記録イベント検索

RECORD EVENT SEARCH [01/04]
ID EVENT DATE TIME
01 RECORD START 2001-09-24 00:23:28
02 RECORD START 2001-09-24 00:30:00
03 RECORD START 2001-09-24 01:49:31
04 RECORD START 2001-09-24 02:00:00
EXIT=[SEARCH] SEARCH=[SET/STILL]

③アラームイベント検索

ALARM EVENT SEARCH [01/03]
ID EVENT DATE TIME
01 ALARM START 2001-05-11 09:23:55
02 ALARM START 2001-05-14 15:22:13
03 ALARM START 2001-05-14 15:30:00
EXIT=[SEARCH] SEARCH=[SET/STILL]

④電源イベント検索

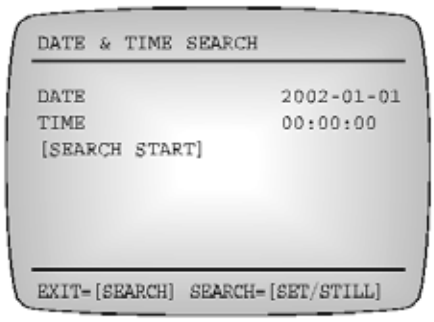


⚠ 注意

- **DATE & TIME SEARCH メニューに移行した際は現在の日付および時刻は DATE および TIME フィールドに表示されます。記録したデータを検索するにはご希望の日付および時刻を入力して下さい。**

- **工場から出荷される際にはデータがないため、RECORD EVENT SEARCH、ALARM EVENT SEARCH、POWER EVENT SEARCH LIST メニューに移行しても、リストは表示されません。**

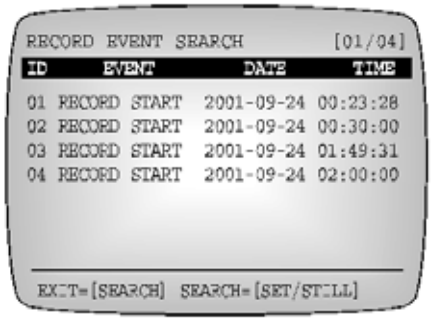
2. 日付と時間による検索



検索のため日付、時間を入力して、[SEARCH START]を選択し、SET/STILL (⏎/II) ボタンを押すと、下の画面が表示され、PLAY (▶) ボタンが点滅します。

PLAY (▶) ボタンを押すと検索データを再生できます。再生を止めるには STOP (■) ボタンを押して下さい。 PLAY (▶) ボタンを押すと下の画面が表示されます。画面下の日付および時刻は現在再生されているデータが記録された時を表わし、一番端の数字は関連するフレームの値をあらわしています。

3. 記録データリスト画面



ハードディスクのデータは記録を開始した時間に基づいて表示されます。リストは30分ごとに更新されるので、本機は記録中30分ごとに新しいリストを作成します。
RECORD (●) ボタンを押すか、モーションを検出するか、アラームが発生するかタイマー記録の設定時間になると本機は記録を開始しますが、モーション検知またはアラーム発生により記録されたデータのリストはここには表示されません。
記録されたデータのリスト上の項目にカーソルを移動し、SET/STILL (⏎/II) ボタンを押すと下の画面が表示され、PLAY (▶) ボタンが点滅します。

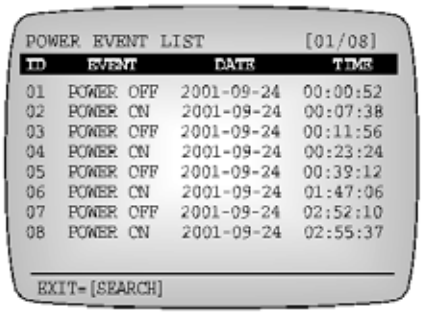
PLAY (▶) ボタンを押すと、選択されたデータを再生します。再生を止めるには STOP (■) ボタンを3秒間押し続けて下さい。PLAY (▶) ボタンを押した時の画面は下のようになります。

4. アラーム記録検索

ハードディスクのデータのうち、モーションが検知されたかあるいはアラームが発生した際に記録されたものが記録開始時間に基づいて表示されます。
他の情報については P.71 の“3. 記録データリスト画面”と同様です。

メモ
記録されたデータのリストが画面に表示されない場合、リストを見るためには左（ ◀◀ ）または右（ ▶▶ ）ボタンを押して下さい。左（ ◀◀ ）ボタンを押すと1つ前のページに、右（ ▶▶ ）ボタンを押すと次のページに移動します。

5. 電源 On/Off ステータスリスト画面



電源が On および Off にされた日付と時刻を順番に表示します。

6. 基本的な再生

ハードディスクに記録されたデータをすぐに再生するには PLAY (▶) ボタンを押して下さい。PLAY (▶) ボタンが点灯し、下の画面が表示され、記録データの最初から再生を開始します。

メモ

- 本機がライブ画面モードまたは記録モードの時は全てのデータが再生されます。
- メニュー画面の時は PLAY (▶) ボタンを押しても再生を開始しません。再生を開始するにはメニュー画面を終了して下さい。

再生を止めるには STOP (■) ボタンを押して下さい。再度 PLAY (▶) ボタンを押すと、最後に停止されたところから再生を再開します。再生中にデータがハードディスクの最後まで来ると、下のメッセージが表示され、再生が停止します。再度 PLAY (▶) ボタンを押すと、記録データの最初から再生を始めます。

再生中に SET/STILL（ ⏎/II ）ボタンを押すと、SET/STILL（ ⏎/II ）ボタンが点灯して PLAY（ ▶ ）ボタンが点滅し、下の画面が表示され、一時的に静止状態になります。
この時に RIGHT（ ◀◀ ）または LEFT（ ◀◀ ）ボタン押すと1フレームごとの静止画面を見ることができます。

再度再生を行なうには、SET/STILL（ ⏎/II ）または PLAY（ ▶ ）ボタンを押して下さい。

メモ
再生中は MENU ボタンを押してもメニュー画面は表示されません。再生中に MENU ボタンを押すと、下の画面が表示されます。メニュー画面を見るには再生を止めなくてはいけません。

7. ジョグ／シャトルを使って様々な画面を見る

さまざまな速度で再生する

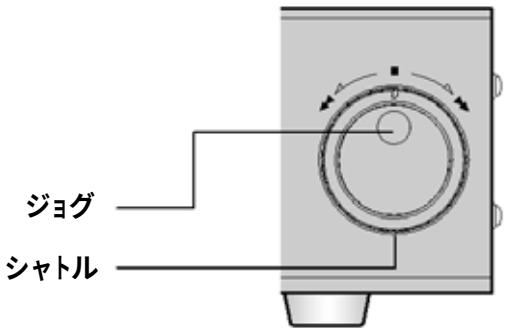
ハードディスクに記録されたデータは記録された通り再生されます。例えば RECORD MODE SETUP の PICTURE QUALITY (画質) が NORMAL に、PICTURE RATE (ピクチャーレート) が 5.00FPS に設定されていると、通常の映像は記録された時の 5FPS で再生されます。

再生速度を変えるには、再生または一時停止モード中に RIGHT (▶▶) または LEFT (◀◀) ボタンを押すかシャトル (◎) を回して下さい。再生中に RIGHT (▶▶) ボタンを押すと、再生速度が速くなり、LEFT (◀◀) ボタンを押すと遅くなります。

シャトル (◎) を右に回すと再生速度は1／5、1／2、1、2、3、5、10、20倍の順で早くなり、左に回すと同様に逆再生方向に早くなります。シャトル (◎) を離すと、再び前のモードに戻ります。

メモ

ジョグ (○) およびシャトル (◎) の位置は下のイラストを参照して下さい。



一時的に静止画面を見る

再生中に SET/STILL（ ⏎/II ）ボタンを押して下さい。

（一時停止モードの詳細については、P.74 の“6．基本的な再生”を参照して下さい。

フィールドごとに見る

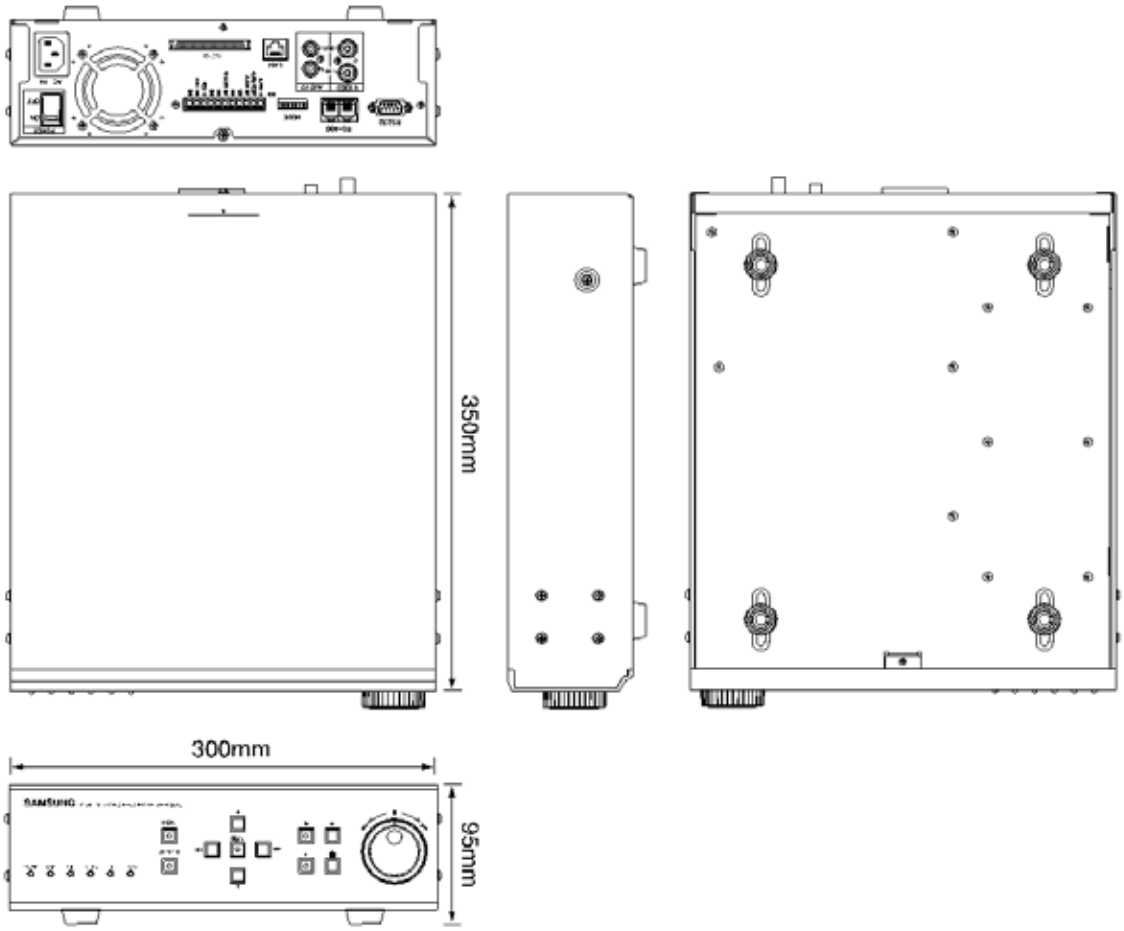
静止画像を1フィールドごとに続けて見るには、一時停止モードの時に RIGHT（ ▶▶ ）または LEFT（ ◀◀ ）ボタンを押すかジョグ（ ◯ ）を回して下さい。RIGHT（ ▶▶ ）ボタンを押すかジョグ（ ◯ ）を右に回すと1フィールドごとの映像が続けて再生され、LEFT（ ◀◀ ）ボタンを押すかジョグ（ ◯ ）を左に回すと逆再生されます。再度通常の再生にするには、SET/STILL（ ⏎/II ）または PLAY（ ▶ ）ボタンを押して下さい。

VI. その他

1．機器仕様

電圧	AC110～240V、50/60Hz
消費電力	26W
ハードディスク	基本 80GB 最大2台まで同時設置可能
バックアップ	外付 SCSI II インターフェイス (SCSI ハードディスク)
映像入力	コンポジット映像、BNC 1 (1.0Vp-p 75Ω)
映像出力	コンポジット映像、BNC 1 (1.0Vp-p 75Ω)
音声入力	RCA 1 (-8dBm、600Ω)
音声出力	RCA 1 (-8dBm、600Ω)
映像圧縮方式	Motion JPEG
音声圧縮方式	G.723 (6.3Kbps、2.835MB/h)
解像度	720×240[NTSC]、720×288[PAL]
画質	Very High/High/Normal/Low
記録フィールドレート	60～0.50 フィールド／秒[NTSC]、 50～0.50 フィールド／秒[PAL]
アラーム記録時間	10、20、30 秒、1、2、3、4、5分
遠隔制御	RS-232、RS-485、LAN
運用温度	0°C～40°C
保管温度	-20°C～60°C
運用湿度	20%～85%
保管湿度	20%～95%
外形寸法	300 (W) ×95 (H) ×350 (D) mm
質量	約 5.7kg

2. 外形图



VII. 付録

1. サービスセンターへ連絡する前の確認事項

本機の調子がおかしいと思われた時、サービスセンターやお買い上げ店に連絡する前に下記の表をご確認下さい。

トラブル	確認事項
・電源が供給されない ・本機前面の電源 LED が消えたままで本機が作動しない	－本機背面の電源ケーブル、電源スイッチを確認して下さい。
・電源供給後、画面が真っ暗である ・起動後、画面が青い	－本機とモニターの電源ケーブルの接続と電源の ON/OFF を確認して下さい。 －カメラ出力ポートと本機の映像入力ポートの接続、本機の映像出力ポートとモニターの映像入力ポートの接続を確認して下さい。 －カメラの出力を確認して下さい。 －BNC ケーブルが本機に接続されているか確認して下さい。
・電源を供給して、メニュー画面が起動後、先に進めない	－調査、修理の必要がありますのでお買い上げ店かサービスセンターに連絡して下さい。
・音声が出ない	－マイクの出力ポートと本機の音声入力ポートの接続、本機の音声出力ポートとモニターの音声入力ポートの接続を確認して下さい。 －音声信号出力を確認して下さい。 －接続しているケーブルを確認して下さい。
・記録できない ・RECORD (●) ボタンが記録作動状態にならない	－入力信号がないと本機は記録を行なえません。 カメラ出力がきちんと接続されているか確認して下さい。 －ハードディスクの容量の残りが 0%になり、本機前面パネルの“FULL”LED が点灯すると記録を開始できません。 －上記の状態で記録を開始するには、RECORD MODE SETUP メニューの DISK END MODE を CONTINUE に設定して RECORD (●) ボタンを押して下さい。 －DISK END MODE が STOP の間に記録を開始するには SYSTEM SETUP メニューの CLEAR ALL DATA を ON に設定し、メニューを終了して下さい。全データが削除されたら、RECORD (●) ボタンを押して記録を開始して下さい。ただし、削除されたデータは二度と復活しませんので、削除前によく確認して下さい。

トラブル	確認事項
・マルチプレクサに接続したら正しく記録および再生が行なえない	－マルチプレクサ映像出力ポートと本機の映像入力ポート、本機の映像出力ポートとマルチプレクサの映像入力ポートを確認して下さい。 －本機のトリガー出力ポート（Trigger Out）とマルチプレクサを確認して下さい。 －マルチプレクサの詳細については、マルチプレクサの取扱説明書をご覧下さい。
・再生中、音声が出ない	－RECORD MODE SETUP メニューで AUDIO RECORD が OFF に設定されていると映像のみが記録されます。映像、音声の両方を記録するには ON に設定して下さい。 －静止画面、高速または低速による再生では音声は出ません。
・再生中画面が縦方向に乱れる	－高速または低速で記録または再生が行なわれるとしばしば起こる現象で異常ではありません。
・再生中の映像と音声の隔たり	－標準規格の範囲内で異常ではありません。
・再生中画面が歪む（正常に再生されない）	－本機は NTSC および PAL の両方の信号を入力映像信号に伝送します。 －もし過去に記録されたデータが NTSC であるにもかかわらず本機の現在の設定が PAL 信号用に設定されている場合、または逆の場合、画面は過去に記録された映像の影響により正しく再生されません。 正常なデータを読み取るには、本機の電源を切り、入力ポートに以前に記録されたデータと種類の同じ信号を接続してから本機を再起動して下さい。データの読み取りが正しい状態で行なわれます。

2. Q & A

Q	A
・記録中電源が遮断された後も記録は行なわれますか？	－電源が供給されなければ、本機は記録を行なえません。ただし、電源が遮断される前に記録が行なわれていた場合、電源が供給され次第、記録を再開します。
・記録中、入力映像信号が遮断されるとどうなりますか？	－入力映像信号がないと、本機は記録を継続できません。ただし、正常な入力映像信号が供給されると、記録を再開します。
・本機がモーション検知状態の時やアラーム発生による記録モード状態にある時、記録を停止するにはどうしたらいいですか？	－STOP（■）ボタンを3秒間押し続けると記録が5秒間一時停止しますので、その間にメニューに移行して設定を変更して下さい。 アラーム記録を停止するには、ALARM RECORD SETUP メニューの ALARM ENABLE を OFF に設定して下さい。 予約記録を停止するには、ALARM RECORD SETUP メニューの TIMER を OFF に設定して下さい。5 秒間何も操作しないと、本機は前のモードに戻ります。
・システムパスワードまたはネットワーク ID およびネットワークパスワードを忘れてしまった場合、どうしたらいいですか？	－STOP（■）ボタンを押しながら、電源を入れてから電源を切って下さい。 設定値が工場出荷時の設定に初期化されます。
・2 台以上の本機種に同一の IP アドレスを使ってもいいですか？	－はい。ただし、2 台が同時に LAN に接続されていないことが条件となります。パソコンによる遠隔監視システムに接続するためには、1 台ずつ LAN に接続して下さい。LAN に他機を接続するには、現在 LAN に接続されている本機をはずしてから他機を接続した後、最低でも1分経過した後にネットワーク接続を再開して下さい。そうしないと正しく接続されない場合があります。

注 意

この取扱説明書の著作権は SAMSUNG Co., Ltd. にあります。

この取扱説明書を SAMSUNG Co., Ltd. の許可なく改ざん等を行なうことは禁止されています。

この取扱説明書は予告無しに変更される事がありますのでご了承ください。

保証書

型番		
シリアル番号		
ご購入日		
ご購入場所		
お客様	お名前	
	ご住所	
	ＴＥＬ	

本製品の保証期間は御購入後１年間になります。
御購入後１年間内に自己修理等をされますと、通常状態において誤作動を起こす可能性があります。修理が必要の際はサービスセンターにお問い合わせください。その際、誤作動の状態と連絡先を下記修理報告書内に御記入頂きお知らせください。
本製品の型式及び回路は予告無しに変更される事がありますのでご了承ください。

修理報告書

修理依頼日	症状	連絡先

ホッコー株式会社
〒460-0006
名古屋市中区葵一丁目 27 番 24 号
TEL(052)935-7165
FAX(052)935-7035

031119